575-190
1200501519751
575
190
ロ
複写

3.9.8

露西亜の輪廓

一九二八年

横井半三郎

帝國圖書館藏

露西亞の輪廓

横井半三郎

三・五・八

575490

此小冊子を
藤原銀次郎大人に
捧ぐ。

二三の機會に露國談を試みた時、前提として露西亞の輪廓を說くの必要を認めた。同時に他の要求もあるので今年正月の元朝に筆を始めて、六日迄に略ぼ書き上げたのが此小冊子である。二月滿洲旅行の汽車中で讀み直し、また補足をした。飜譯もあり、拔萃もあり、聞書もあり、巷說もある。何等筆者の創意になるものではない。筆者は滯露一年有餘同行の人々と倶に色々の事相を見聞した。思ひ出しては筆を呵したので、一種の追想であつたが、讀者に感興を與ふるものありや否や。假令紙屑籠へ投げ込まれても、少しも介意する處でない。元旦早曉點燈して机邊に座し默想すると、筆者が悠々斯の閑時を領する幸福に想到した、と云ふのは筆者の半生、殊に此七八年は藤原大人の高誼、精神的並に物質的、別して後者に屬する惠澤に浴することが深い。感銘忘るる能はざる處、無論筆紙に盡し難いものがある。顧みれば家父九十歲而も頻死の床にあつた。孝子遠きに去る可きで無いは云ふ迄も無いが、大人の慫慂に接するや、生別と死別とを兼ねて決然として征途に上つた。ひそかに斷腸のおもひがした。モスクワに着くと間もなく父遠行の悲報に接した。もとより期したことであつたが、不幸にして母の臨終に會はなかつた筆者は、此悲みを再びした事を悲しんだ。當時を追懷して筆を把りつつ、深更に及び更に曉に徹した。所謂夜を日に繼いだのである。云はば淚で綴つたのが此小冊子である。筆者の心境、今筆を把りつつある平靜は大人の賜であるを思ふと、此感謝は筆者丈が有するものであり、小冊子の成る、また大人の賜たるを深く感ずるのである。

目次

露國を語る前に……（一）
露國の自然は惠まれて居らぬ……（一）
天然資源に富むは事實だ、而し開發は容易で無い……（二）
單調なる自然……（三）
氣候が惡い……（四）
蘇衛土聯邦……（六）
緒言……（七）
露國……（三三）
天然條件……（三七）
歷史的、文化的要素……（三九）
スラブ殖民……（四二）
ビザンチン文化の影響……（四三）

キエフ王國……（四四）
大露國集成時代……（四五）
韃靼侵寇……（四六）
モスコウ王國……（四九）
內亂時代……（五一）

ロマノフ王朝……（五六）

教會……（五六）
西歐化……（五七）
デカブリスト……（五八）
農奴……（五九）
擴張政策殖民國定……（五九）
工業……（五八）
國運……（六〇）
對外關係……（六〇）
對內問題……（六一）
クリミア戰……（六一）
農奴解放……（六二）
インテルゲンチア……（六三）

二十世紀の露國……（六三）

官僚拔扈……（六四）
官僚外交……（六五）
經濟狀態……（六六）
石炭產額、鐵工業、機械工業、農具、紡績業、麻工業
內外商業……（六九）
西伯利亞の發達……（七〇）
勞働問題……（七一）
農業……（七二）
小國民問題……（七四）

民主々義運動……（七四）

一九〇五年革命……（七八）

大戰……（八四）
戰費……（八六）
商工業……（八六）
皇帝孤立……（八八）
勞兵會……（九三）
退位……（九三）
臨時政府……（九四）
レエニン歸國……（一〇〇）
外交政策和議問題……（一〇一）
相反するもの丶分離……（一〇三）
十月革命……（一〇八）
過激派の政權把握……（一一四）
朝に立つ過激派……（一二〇）
戰時共産主義政治……（一二八）
新經濟政策……（一三七）
農業の復活……（一四〇）
貨幣制度……（一四一）
外國貿易獨占國營……（一四一）
工業の再建……（一四五）
私營商容認……（一四七）
組合制度……（一四八）
革命と農業……（一五一）
ミール制……（一五三）
新幣制と外貿獨占……（一七三）
共産黨……（一八一）
レヱニン崇拜……（一八八）

勞働組合の消長……（一九一）
露國の新教育……（二〇一）
幹部、反幹部爭……（二〇九）
革命十週年……（二一九）
五ヶ年計畫……（二二三）
對外政策……（二二五）
露國を顧る……（二三五）
日露關係……（二四九）
恐怖政治……（二五七）
キーネス教授の露西亞觀……（二六三）
一九二七年のモスクワ……（二七〇）
露國重要法發布年鑑……（二七八）

露國を語る前に

筆者は西伯利亞を往復して、更らに**ボルガ**河を下り、高架索地方を見て、**クリミア**を過ぎ、**オデッサ**より**ウクライナ**に入り、轉じて舊都を訪ねた。露國の自然を大觀した結論は斯うである。

露國の自然は實に惠まれて居らぬ　烏蘇里、黑龍江兩鐵道沿線所謂極東三州の開拓の遲々たるを見よ。西伯利亞鐵道沿線の開拓乃至文化の低きを見よ。農耕拓けても所產を換價するに地の利が惡い、況んや氣候が恐ろしく惡い。歐露の森林地帶にしても地の利が乏しい爲めに其價値を發揮し得ない。輸出される木材にしても量多くして金高は左程に上らぬ。黑土地帶は樹林の生育せぬ程に秋冬は乾燥する。農耕には適するが地方的飢饉は絕間が無い。我が日本々土とは到底比すべくも無いが、北海道乃至南北滿州と比較しても夏季に熱

、量が甚く乏しい。國土の大を以て所産の大を推量するは大なる誤りである。收穫率が非常に低いのである。海岸線が始ど無いに近い、海通商の不便と思ひ合はせて惠まれざる露國の國土を思ふ可きである。彼の九百里を流れる**ボルガ**河、**バルチツク**海より裏海に通ずる大水路、之れが支那若くは獨逸に見るが如く一年を通して人類の利用に委したら共養らす繁榮は恐らく世界無比であらう、充分の活用を爲し得るは夏季の三月間に過ぎぬ。以て此大國の全貎を察知すべきでは無いか。

天然資源に富むは事實だ而し之れが何れも僻遠の地にあつて開發は容易で無い。換言すれば開發能率が擧らぬ 投資に對する利潤が恐ろしく低い、他國に成効する企業でも露國では失敗に近いものであらう。露國の天然條件を考察すれば直ぐに判る事である。露國に投資を試みんとするものは特に此點に留意するを要する。自國本位の尺度を以て露國を測れば直

ぐに躓くのである。失敗に終るのである。切言すれば十萬分一の含金鑛は他國で嫁行に適するが、露國では萬分一含金鑛でも嫁行に價ひせぬかも知れぬ。凡て同樣に觀察すべきである。

單調なる自然 平原國、平原山林國。半歲雪に鎖されて一年夏冬あるのみ。無變化の平原生活の單調は此處に野生野死する人類に**ユートピア**思想を持たせた。高遠な理想を與えた。萬民を驅つて空想に耽けらせる。空想に生きるのが自慰である、慰藉である。空想に生きるの外無いのであるからである。空想に生き得ぬ者は**ウオツカ**に醉ふて一生を終るのである。**ウオツカ**は露國生活の必須不可缺品である。自然が作つたのは露國人の空想生活である。語を攪えて云へば露國人は實行人で無いのである。浦鹽築港案は當局者の更る每に幾十枚の計畫圖を描いたか判らぬが、未だ實行に移らぬと聞いた。交渉談判は議論に日を費して一年越、二年越が常である。宴會に出たもの各人何事かを

言はざれば濟まぬ、各人が言ひ合ふのである。實行主義で無くして空想人だからである。二月革命から十月革命への推移を見ても、果叉共産主義への邁進振を見ても、戰時共産主義時代の三年間の實績を見ても此空想人が實行に卽して居らぬ跡をマザ〳〵と見せて居る。極言するとソヴエト制度は議論から理想更らに空想に移つた結果とも云ひ得る。臥薪嘗膽の流離白系露人が此期に臨んで尙議論に花を咲かせて居る、小異を棄てて大同に就く事の出來ぬ、大同團結を爲し得ぬのも此處に在る。露國の大自然が與へた露人特有の國民性の一であると信ずる。文學藝術に優秀性を示せるのも此故である。

氣候が惡ひ　天然の威力が露國人を無遠慮に虐待する。不可抗力に絕對的服從の習性を作つた。此國は**キエフ**に建國して東北へと向つた。此國人をして忍耐性たらしめた。困苦に堪ゆる事に於て暴政に泣伏する事に於て壓迫に隱忍する事に於て缺乏に我慢する事に於て、或は流刑に投獄に、亡命に、克く忍ぶもの露人の如きは無い。冷熱感受し易き邦人に比すれば五年の世界戰に堪えた歐州人の特長も異とするが更らに露人の特性は顯著であり、耐久的である。革命後十年の辛酸は露人ならでは勘忍出來ぬ處である。此耐忍性は露國人を遲鈍そのものとした。露國人を極端より極端へ走ると評するのも卽ち其特性の反動を言ふのである。**ボルガ**の流れを露國人の母と言ふのは眠れる獅子と言ふに等しいが醒めた時の反動の極端なるは之亦自然である。露國の大自然が與えた露人特有の國民性の二と信ずるのである。

廣大な露の國土が自然に惠まれて居らぬ事、世に宣傳せられる如く天然資源の利用開發が達成せられるもので無い事、此の二者に於て露國を買被る可からざる事を强唱し度い。國民性が理想的、空想的なる事、耐忍性、持久性、忍ぶ能はざるを忍ぶ特性をを持つ事、其反動として極端より極端への反撥性に富む事此等を看過しては露國は解せられぬと思ふ。

此小冊子の一讀を乞ふ前に此れ丈の前提を感味して貰ひ度い。否らずんば日本の尺度を以て露國を測られる恐れがあるからである。

斯の前提を以て**ソヴエト**制度、國家計畫、國營企業、外國貿易獨占、勞働法、社會保險制其他諸般の施設を見れば看板と內容、外觀と本質、世評と實際を如實に掴むに便なりと思ふのである。古人云はずや悉く信ずれば讀まざるに如かずと、革命露國が國營印刷所で發行する書籍印刷物は汗牛も啻ならずである。此れを讀む者須らく古人の言を味ふ可きであると思ふ。

蘇衛土聯邦　民族自決主義から各小民族が小國家を形成分立せしめて居たが政治の體驗が共不便、統一の便利を明かにした。遂に露西亞共和國、白露共和國、高加索共和國、**ウクライナ**共和國、**ツルクメン**共和國、**ウズベツク**共和國の六大共和國に纏め上げた。故に更に此等共和國內に從來の小民族的小國を共儘自治共和國又は州として置いて居る。

命露國が國營印刷所で發行する書籍印刷物は汗牛も啻ならずである。此れを讀む者須らく古人の言を味ふ可きであると思ふ。

蘇衛土聯邦　民族自決主義から各小民族が小國家を形成分立せしめて居たが政治の體驗が其不便、統一の便利を明かにした。遂に露西亞共和國、白露共和國、高加索共和國、**ウクライナ**共和國、**ツルクメン**共和國、**ウズベツク**共和國の六大共和國に纏め上げた。故に更に此等共和國内に從來の小民族的小國を其儘自治共和國又は州として置いて居る。

◀一九二七年國勢調査▶

社會主義ソウエート聯邦共和國

社會主義ソウエート共和國聯邦
莫斯科
面積　二〇、七四五、〇〇〇平方キロ
人口　一四六、二〇〇、〇〇〇人

ザカフカズ社會主義聯邦
ソウエート共和國
首都　チフリス
共和國　三
協約國　一
自治共和國　二
自治州　二
面積　一八一、六三三平方露里
人口　五、八〇〇、〇〇〇人

ウズベツク社會主義
ソウエート共和國
首都　サマルカント
自治州　一
州　七
面積　一八四、八三六平方キロ
人口　五、一〇〇、〇〇〇人

ウクライナ社會主義
ソウエート共和國
首都　ハリコフ
自治共和國　一
區　一四
道　六三六
面積　三七七、五二九平方露里
人口　二六、九〇〇、〇〇〇人

白露社會主義
ソウエート共和國
首都　ミンスク
區　一〇
道　一〇〇
面積　一〇九、八〇〇平方露里
人口　四、九〇〇、〇〇〇人

ロシヤ社會主義聯邦
ソウエート共和國
首都　莫斯科
自治共和國　一一
自治國　一二
縣　三八
地方及州　四
面積　一九、四四三、〇〇〇平方キロ
人口　一〇〇、五〇〇、〇〇〇人

ツルクメン社會主義
ソウエート共和國
首都　ポルトラツク
區　五
道　二六
面積　四一八、五三九平方キロ
人口　一、〇〇〇、〇〇〇人

六共和國が所謂蘇衞土聯邦を形成して、陸海軍、國家保安、外交、海外貿易は勿論基本財政を統轄處理して其他を各自の自治に委ねて居る。 先づ左表を熟視して貰ひ度い

筆者は露國を旅して到る處に韃靼帽を被て、長靴を履いた者の多くを見た。日増に此古い傳統的流行が蘇生しつつあるを見た時に露國を全く亞細亞と思つたのである。 凡ての印象、直感は北支那を旅行して得たるもの其儘である。故に更に歐亞は跨る露國の地圖を展べて左表と對照せん事を讀者に要求する。

緒言

露國の革命は大運動であり、大變遷であつた。 露國のみで無い世界的のものとなつた。 兎も角無産者の運動は隨處に波及したでは無いか。 光りが印度から來た樣に、**ゼルサレム**から來た樣に、**マホメツト**が教えた樣に、**レエニン**は何物

かを教えたのである。

露國には水が低きに就く樣に時の流れが流れて渝らざる一の勢を作つた。此勢か幾多の歴史的自由主義者を産んだ遂にケレンスキーを産んだ。レエニンを産んだ。トロツキーを生んだ。産れた人々は遂に革命を爲し遂げた。

露都に於けるパン爭奪一揆が遂に革命の決定的素因となつた。人心動く時には遂に極端な左傾思想か勝を占むる。此が此場合の群集心理である。此一揆と此心理とを合理化的に導くのが煽動家であり、革命家であつた直ちに時の指導者となつた。這般の經過は大なる教訓を爲政者に與ふるであらう。

凡ての行詰りは唯一の打開を極端なる手段に求むる。之れ勢の極まる處である。勢は導き樣で如何樣にもなる。進化を求め改善を追つて社會政策の遂行を要するは識者の夙に唱ふる處である。

時の流れは强かつた、決河の勢であつた。抑も何に因するや。革命は思潮の

壓倒的大勢であるが低くきに向ふが故に其勢は決河の勢となつた。露國の文化、政治生活、國民經濟は歐州に位置しつつも餘りに他國と懸絶して居つた。此懸絶せる孤立は永久なもので有り得ない、世界的思潮は孤立の露國を捲き込まずには措かぬ。此懸絶溝壑が革命の因である。水の流れは低きに向つて水準らんとする。之れが革命であつた。今日の露國は世界の公敵とも云ひ得る。列國を社會主義化し得ない事の明かな今日露國のソヴエト制は列國を敵に廻はして再び露國を世界文化より懸絶せしめ樣とするものである。徒らに墻壁を高くして露國を孤立に措くものである。結局は世界と協調を保たずして國が立つもので無いと共に其文化、政治經濟は再び露國を世界思潮より懸絶孤立せしめて其處に大なる溝壑を作り他日更らに決河の勢を誘導するものとなるかも知れぬ。露國が協調へ方向轉換をするのは自然の成行であらう。

露國は革命で獲たものと失つた凡てとを有する。失つたものの大は到底計

上し得るもので無い。あとの準備なしに唯だ破壊をやつた此人類の損失國民の損失を三思して見ねばならぬ。饑と死のドン底より漸次生活水準を高めて來た。生活標準の立て直しをやつた。今日の露國はよくなつた、よくなりつゝある。然し西歐各國と比肩し得る程度迄よくならねばよいとは云はれぬ。此可能があるや否やが問題である。

革命のために文化の凡てが後退したが出直した新露國は所謂進興露國である。興隆の勢の強いのは自然である。東京に瓦斯施設を見たのは明治十七年であり不忍池畔電柱の上に點ぜられた電燈に滿都の士女が魂消たのは二十三年憲法發布の紀念すべき時であつた。日本の生育を顧みて新露國の生長を憶ふのも手近かな比較では無いか。

物質的享有が西歐人より低いとて露國の強大を割引視する事は出來ぬ。あの國土、天然資源、あの人口、強大なる可き條件を有つて居る。日本の生育を顧み

るならば露國の生長をも見屆けられる。芬蘭を始め**バルチツク**諸小國は一に露國に備える爲めの合縦連衡に日を暮らして居るではないか、攻勢に出られたら一たまりも無いからである。露獨の近づくは自然の理であるが同時に英露協商が再現せぬと誰れが保證出來よう。

社會主義國建設は全く經濟問題に局限せるものであるが擴張政策は傳統の精神である。蒙古を略し支那に及ぶ。此傳統を棄てる事は出來ぬ。我過去の六十年は北方からの強大な威壓があつて始めて見る處の發達であり努力であつた。**彼理**の打つた警鐘に感謝する前に此の強い刺撃を認めねばならぬ。吾等の先覺は夙に露國を認めたのである。

革命の進化は速かなるものである。煽動的な標語の如きは日本では新らしいが露國ではもう誰れも振り向かぬ陳腐なものとなつた。昨の革命氣分を忘脚してセッセと働らいて居る。革命を忘れて一種の安定に這入つて居る。換

言すれば革命は大なる進化を遂げつつある。

無力な暴動が革命の決定的素因を作り、極左傾派が混亂時代の指導的位置に立つは不可避の勢であるが其處に湧く革命心理は極端から極端に走る、革命が行き過ぎを演ずるは自然であり當然である。 漸次常道に復歸するのも當然であり、今や其過程を速かに行きつつある。

今日の露國は形の上からは資本主義への降伏であり、妥協であるが倚時の精神、新興氣分が生動して居る。 物定れば沈滯する。 苟も流動する限り潑剌たる生氣の澎湃たるもののあるを見遁す譯にゆかぬ。 新露國は生々微動して居る。 未だ墮落し腐敗する域に達して居らぬ。 之に反して資本主義國文化の頽廢現狀に想倒すれば慄然たらざるを得ぬ。

露國の國民經濟がよし低級でも、其文化が幼稚でも國民的生氣は物質的苦難に克つて社會的希望の實現へと邁進する。 其經濟政策が誤つても文化政策が

後退であつても此國を土崩瓦壞せしむる樣な無策無能では無い。 之は革命以來萬般に亘る新組織の完成に徵して明かである。

吾人は露國を何と見樣うか。 吾人は再び**彼得、カザリン**以來增大せる東漸の威壓を近き將來に感ぜねばならぬ。 印度は既に之を直感した。 英露斷交は恐らく其結果であらう。 東支鐵道に對する支那官憲の壓迫、露國側の窘縮を見て露國の放棄を速斷する者がある。 東支鐵道一度支那の手に移らば極東三州は既に露國のもので無い。 國運を賭しても棄てるもので無いは明かである。 露國を見縊つてはならぬ。

非理想、非公共の傾向が日增しに大きくなるのは吾人の社會に見る處である。 人格的要素が消え去つて一に金錢萬能生活に墮しつつある。 試に吾人の環境を見よ、利を見る時は如何、利を獲る時は如何、利盡きる時は如何。 新興露國は正に其反對である。 其處に青年の心を捉ふる或ものがあるかもしれぬ。 然り露

國を解する者は青年であらう。露國は理想に生き空想を追ふものであるからである。青年は之れを難有いとするものであるからである。色盲的に露國を見るもとより不可であるか正觀することとまた容易で無い。此小冊子の記述する處單に露國に關する常識を提供するに過ぎない。讀者更らに露國を徹底的に見ん事を望む。

凡てを唯物史的科學的基礎の上に新露國を再建せんとする。歴史と哲學と宗教と傳統とを無視する所以である。凡ての相互關係を合理化せしめんとする。此れが**ソヴエツト**制度である。合理化した制度必ずしも運用が甘く行くとは云へない、要は運用を伴ふか否かにある。國家計畫局があつて所有有能技師學者を網羅して凡ての全國的生産分配計畫を立てる。中央統計局があつて凡ての資料を蒐集供給する。人口調査も工業調査もやつた、明年は農業調査もやる。勞働者、農民の生活調査もやつて居る。比較的整然たるもので日本に無

い調査統計が出來て居る。乍然一般民人は政府の計畫かと一笑に附する場合が多い。當てにならぬは政府の計畫と言ふ成語がある。之れ過去に於ては計畫が畫餅に終つて居る事を證明して居る。貿易の如きは十の輸出に對して八の輸入を爲さしむるが計畫局の根本方針で、此原則に據つて貿易省が貿易監理をやる。據る處は統計資料であるが、之れが間に合はないから手さぐりで決定して行く、思ふ樣に出超が出來ぬと言ふ現實暴露に終つて居る。此れ等は理想と實行の喰違であつて人爲制度の缺陷である。

關税政策が全くの保護策となつて溫室工業と溫室商業を作りつつある。凡てが國民經濟上の必要を出發點とせず全く財政上の見地から出て居る。如何に科學化、合理化を說いても經濟原則經營原則に沿はぬ限りは駄目である。露國では勞働者あつて産業ありで、産業あつて勞働者ありで無い。凡てが生産を先きにするので無かつた。近來氣が付いて萬事生産第一となつた。**ルイコフ**

は節約の大運動をやつた。其處に此必要がある丈の缺陷を證明して居るではないか。近い例を取ると餘の世界各國では製品市價は低下する一方である、日本でも然りで日本の工業が眞に經營原則に還つたのは此兩三年卽辛い苦驗の下で達成したのだ。能率の增進は溫室で出來る事で無い。露國工業は能率の增進が又經費の節約が顯著ならざる限り其結果は知る可きである。

瑞典の如きは國營民營何れを可とするや企業の種類によつて適不適を調査して居る。此調査の發表は世界に一の指導を與へるものと期待されて居る。露國に於ける數年の經驗は露國當局の自贊するが如き成果を收めて居らぬ樣だ。歐米に於ける果又日本に於ける經驗の示す通りに然う簡單なもので無い。**ソウエツト**露國の計畫幷に統計的發表は雜作も無く此難事業を片付けて居る。其處が大に割引を要する處である。吾人の見た工場では機械の生產能力を充分發揮して居るものは皆無で七八割が最大であつた。少くとも露國の實驗經

濟が今日迄教えた處では生產方面は自由競爭に如くものなしである。露國の遣り方ではどうしても經營原則でゆけぬのである。分配方面では私營商を許しては居るが漸次撲滅策を以て臨んで居る。消費組合を以て代へんとするのである。組合事業は元と〳〵教育と伴ふものだ。教養の無い國民がやれば直に滅茶苦茶になつて其弊堪ゆる處で無い。露國に此傾向が數多く見える。此處に將來の破綻を藏する事なきやを想はしむる。不知露國が凡ての企業を國營でやり成果を收め得るや否や。或るものは國家の監理より解放するに到るであらう。冷靜に事物を正視し得る日が其機會とならう。

露國の勞働立法は革命當時の勢ひに似ず再び勞働者を經營監理より賃銀稼ぎに復歸せしめた。盟休戰法をすてて生產主義に代つた。賃銀勞働條件に關する盟休は反革命を以て見らると言ふ。簡單に言へば勞働者は盟休權を持たぬ。之を勞資の合理化だとして居る。雇主は殆ど直間接に政府である。政府

者は臥薪嘗膽を說いて勞働者の要求を押へて賃銀政策を支持する。毎年八%の賃銀引上を以て勞働者の脅威を緩和して居る。結局は依然として勞働者の勞力搾取に終るでないかとも思はれる。

スターリン氏の**レニングラード**に於ける一昨年の演說によると國有企業の重役以下使用人の監視は政治警察の下にある。或る企業では生產高が減じたとて警察が工場に出張して居ると聞いた。監察院があつて檢査をする外に此警察眼の下に凡ての企業が置かれてある事は妙な現象である。其結果は如何。三權の分立が昔から露國では明確で無い司法は往々行政の一部化するし斷罪は政策を加味すると言ふ。司法事務に對する官吏の獨立權が怪しいのである。刑事に於て民事に於て不安至極である。其影響も推し測らる。

露國に於て言論の自由ありやと云へば其返答に躊躇する。**トロツキー**一派が幹部派に反對した。而し**ト**氏の主張が那邊に在るや一般國民に判つて居な

いであらう。**ト**氏の言論を發表する機關を有せぬからである。印刷機と新聞が國營である以上、幹部派が政府機關を掌握して居る以上反幹部派の意見主張が一般國民の前に公表される機會は毛頭無いのである。幹部派對反幹部派內訌は共產黨內の事であつて黨機關に於て議論もすれ、一般國民の輿論、批判に訴へる筋のもので無いとして居るからである。政治批判を爲し得るものは共產黨に限る事で輿論なるものの存在を認めぬ結果である。一般國民は下手を云へば其位置を逐はれ、其職を奪はれ、壓迫所刑を免れぬのである。犬死を恐れて沈默するのである。一國一政黨主義而して共產黨が飽迄政權を把握せんとする自然の結果といはねばならぬ。

一體共產主義の根本は個人の絕對自由說から出發して居る。故に單位は絕對に個人であつて家族で無い。家族制の撲滅を期するのである。家長制。孝行教義は凡て農業時代の遺風と見る。小供を撲つて投獄せられた親もある。

工場には必ず倶樂部がある。家族の娛樂場兼政治教育所である。換言すれば家庭を無くして倶樂部を以て之れに代へんとするのである。近時倶樂部に集るものが減じたとて大騷ぎして居る。矢張り家族的傾向家庭的傾向が增すなどは皮肉で面白い。婚姻、離婚の自由、忽論戀愛自由である。賣婬を取締らない。姦通罪の無いのも個人絕對自由說の當然の結論に外ならない。媒介、幇助丈が重罪を以て擬せられる。理論としては斯の通りだが男女何れが不利かと云へば女をバリウする男が見つからぬ。女は男に嬲られ勝ちで結局不利な位置に置かれる樣だ。當然過ぎる事だと思ふ。人間と云ふものは考へた通り、敎えられた通りには行かぬものである。

宗教は帝王主義、帝國主義のために道具として存在するもので共產主義社會の下には無用有害だとする結果共產黨員は凡ての宗教的儀式に列する事が禁ぜられる。宗教の有用不用は議論の問題であるから之を避けるが少くとも露

國は宗教に婬して居つた、餘りに抹香臭かつた。**モスクワ**の街の辻々には必ず寺院があり其數千餘を算ふ可く、其他**レニングラード**、**キエフ**、**ハリコフ**の諸都市に近代建築として誇るもの悉く大寺院大伽籃である。田舍の農村も然りである。宗教に冷談な筆者から見ると宗教排斥の聲大によし少しく國民を覺醒させるがよい。此點**レエニン**の排宗教は國民に警告するものと解せられる。乍然徹頭徹尾絕對排斥すべしと言ふが如きは理窟敗けにして實際論で無い。其勢を殺ぐを以て足れりとすべきである。生ける敎會と云ふものが出來て新政治迎合をやり出した。時流に隨て行くのである。之も結構である。露國の正教は國家の保護に腐敗し切つたもので苦難を經て居ない、改革をやつて居ない、今や其試練の中に在るのだ。信長に抗した光佐の如きが居ない、**チーホン**總主教が饑饉救濟のために寺寶を賣るに反對して投獄せられた。其他追放所、刑投獄された僧侶は數限りあるまい。乍然猛然として起つ熱狂徒も出なければ殉

教者も出なかつた。時の流を見るに敏な僧侶が新政治に迎合して説く所の新派も便法に過ぎぬから勢力は無い。依然として舊正教が大勢を支配して居るが親鸞も日蓮も**ルーテル**も見當らない。維新後の日本の佛教の樣な行程をゆくものと見られる。惰勢に過ぎぬのである。

我德川の初期に鎖國令を布いた。外國干渉を斷つて一意德川氏存在の確實を增す爲めの唯一の政策であつた。鎖國をし無つたら德川氏は三百年の幕政を支持することは無論出來なかつた。鎖國政策の結果を吾人は充分に了解することが出來る。露國の現在は略鎖國である。國人の國外へ出る事は絕對禁止と云ひ得る。政府要人丈に例外を認める。無論外人の入る事も極めて制限してある。朱に交れば赤くなる東洋思想で無くして水を指せば薄くなる結論から來て居る。資本主義の花は實は全く露國人に見せまいとする。世界の形勢は既に反動期に入つた。何れの國を見ても甚敷右傾した。露國爲政者が云ふ如き左傾々向は世界の何處にも見出されないでは無いか。僅かに共産主義者の管見を聞かしめ樣とする。資本主義國の實體實性發達を悉く國人に祕して共産黨員丈けに批判の權利を與える。

第三**インターナショナル**は全世界に共産主義を以て君臨しやうとする、光被せしめ樣とする、其抱負は偉なりとせねばならぬ。故に露國の現狀を露國執權者の不利に批判するものは此神の如き大精神に反するものとして黑帳に記入する。惡く云へば閻魔王の臺帳に乘せられるのである。之れは露國に取つては正當防衛である。異教徒排斥である。共産黨が熱狂的である丈異端排斥は強い。露國視察者の批判を二種に別つことが出來る。一は賞讃者である。他は惡口者である。前者は無難だが後者は忌避に觸れる。忌避に觸れた者は再び入露はさせぬと云ふ。そう有り相な事である。

露國の西歐隣國は東方蠻人の行爲として赤の革命を呪つた。共産政府を呪

つた。それは吾人、極東人の想像以外である。それには種々の事情があらう。宗教を排する**マルクス**派を嫌忌することも其一理である。京都に往つて排佛を高調したらば市民の批難は如何であらう。同じ理由で至高至上、奉仕することを以て、生命とする信仰を踏み蹂られた西歐人の憤怒は想像し得る。革命は凡らゆる舊來の傳統を捨てしめた。善惡に拘らず廢棄するのが革命たる所以である。這般の實情を目撃した隣國人が蠻行爲とするのも當然であつた。革命は實に多くの支配階級者、僧侶、富豪、智識階級を國外に放逐した、留まつたものは無遠慮に殺した、壓迫した、監視した。此れ等の被虐待露人は親戚、朋友知己の多くを隣國に持つ。隣國人が共產黨を良く見る筈が有り得ない。露國は商工業方面に於て西北歐各國の企業家に負ふ處が多い。大抵の工業、主要なる大商店は外國人の經營、半經營に屬した。此れ等の全部を殁收した。被殁收資產の所有主及共關係者が露國を不信呼はりするのも當然である。共產政府は舊政

政府の債務を自ら排却した。佛國の如きは比較的零碎な金が集つて、對露債權を爲して居る。之れが全部水に流れては、延いて對內政問題として、重要性を持つ、其程に利害關係者の痛苦が多い。米國すら此國際信義背反を楯に、露國承認をせぬ位である　此れ等の事實が密接なればなる丈、深ければ深い丈に、新露國及共產政府は蛇蝎視されるのであるが、飜つて日本から見ると、三億圓餘の舊債權が政府にある丈で、それも國民は殆と忘れて居り、其他の物質上の痛苦が殆とない、況んや同情的の感情は、凡て間接的である丈、日本人の反露感情は淡々として水の如きものである、恐らく今日冷靜な觀點から、露國を視るものは、日本人であらう、又露國をよく云ふのも、よく思つて居るのも、日本人であらう。吾人は虛心坦懷、以て露人と接觸し、交際し得る。露人も日本人に接して、始めて友人を見出すであらう。

今日の露國人が、新政を謳歌して居るや否やの總決算的質問が、逢ふ人每より

出る。之れに對して、國民の殆と全部が謳歌して居ないかも知れぬと答ふるの外は無い。何となれば、新政の惠澤が、物質的に具象化される迄に到て居ない事と、自由の國でありながら、共產黨の規律獨裁政治と沈默とを餘儀なくされて居るからである。今後の改善發達に望を囑して居ると云ふが寧ろ適切であらう。

マルクス信條で堅く武裝して居る共產黨員中の錚々たる者以外は、凡人の常で回顧的追憶的である。卽ち新政治下の生活をよく云はないのである。自然白が多いか赤が多いかと云へば、多數が白で、小數が赤だと色別する外は無い。今日の露國には赤白二色の外はあり得ない。白いものも被壓、被監視を蒙るので沈默に終るのである。之れが今日の現狀である。然るに露人の全部が、赤だと速斷して、新來の露人を迎へると焉んぞ知らん、此新來者は**モスクワ**では純白だとて被壓者の一人であつた樣な話が哈爾賓であつた。

國民皆兵主義を採つて、資本主義國の攻圍の中に、無產者獨裁國の獨立と權威

とを保護すると云ふ赤衞軍は、事ある每に國防充實の宣傳をやる。**チエムバレン**飛行機醵金の如きが其一例である。中には那翁主義が出現して、無名の英雄が崛起して、革命横奪をやる事無きやの心配迄する者もあるが、或はそんな風聞を生む原因が在るかも知れぬ。歐化主義を排して、**スラブ**本來の立場に、文化の建設を爲さねばならぬと云ふ從來の國粹論の外に、歐亞に介在する露國は、兩文化の接觸結合を使命とすべきで、半歐半亞主義を唱える者も出て來た。資本主義倒壞の**マルクス**、**レニン**一點張りでは、物足りなさを感じ出した證據であらう。此れ等は一說として聞く可き、比較的閑問題であるが、吾等に住み心地よい住宅を提供せよと云ふ勞動者の住宅問題や、製造品の缺乏對策如何と詰寄る大衆の聲や、新官僚の綱紀振肅問題や、家無しの不良兒女問題やは足許の緊急問題を爲しつつある。

戰前の露國は、**ウオツカ**の專賣をやつて歲入の約四割の財源を之れに求めた。

軍隊の酒害に堪へ切れなくなつて、大戰中禁酒を斷行したのは、英佛軍が**アルカロイド**を禁したと同じ筆法であつた。之れが社會主義政策と一致するので革命後も依然襲踏した。然るに、惡酒密造が國民衞生に害あるとの理由で、再び專賣制を復活して重要なる財源とした。益重視する傾向のあるは、其生産增加に徵して明かである。必要の前の實際へ進歩したのである。換言すれば實際の安定に入りつつある實證に擧げたい。

支那では、城を屠つた直後に、平康裡を盛にする、演戲場を流行させる。以て不良分子の陶汰と、人心の緩和をやる。之れが古來の定則である。露國は芝居と映畫に力瘤を入れ、大に流行させて居る。貞操無視で自然調和が出來る。公設賭博場もあつて、不良分子の陶汰に資する。荒い人氣から平和人氣への轉換も巧に行つて居ると云へよう。貞操觀念無視は、露國のみならず、西歐一帶を風靡したが、其主因は生活難から來て居る。衣食が足れば、自然と上品となり、又之を重

視するのが、人間性であるから悲觀は無用である。

美術文學までを、革命と結び付け樣とするかに見えたが、文藝が革命と何等交涉を持たない事は判つたらしい。舊宮殿、寺院、劇場を破壞して終へと云ふ、革命餘勢を喰止めたのは、一に**ルナチャースキー**文相の力であつた。當然過ぎた話であるが、露國文化の爲めに**ル**氏の功績を認めねばならぬ。

現制度に不滿分子が、よし刑戮の苛虐があらふとも、勇敢な軍國の歷史を持つ露人である以上、劍を把つて反逆を敢てしないのは何故かと、不審がる人もある。これに對し筆者はこう答える。大戰の死者か百五十萬、傷病者が百六十七萬五千此れが世界戰の犧牲である。此外に內亂中の死歿者が凡六百五十萬、飢饉の死者が五百萬總計千五百萬人を失つて居る。此內には所謂赤の虐殺に斃れたと噂する百八十萬人も含んで居る。此外に國民經濟の破產、全國民を死と飢の水準まで墜したのである。此以上の犧牲の餘裕が、露國に殘つて居らぬ、疲勞し

切つて居る。國民の總意は革命に依て、改造された現制度に依つて、改善を加へて、平和發展せん事を冀ふ外は無いのである。此れが現下の大勢であると見度いのである。共産黨員丈けが、**マルクス**敎條で武裝して、大勇氣を以て進みつつある。多衆國民は引き廻はされて行きつつあるのである。

なぜ**レエニン**を悪口せぬかと云ふ問もある。官僚政府倒壞、政治革命は全國民の一致した希望であつた。革命が行過ぎをやり、國民塗炭に苦しんでも之を連帶責任だと解して居る。新經濟政策を以て、飢と死から國民を救つたのは、**レエニン**の功績だとして德として居る。然り**レエニン**の如き、中心人物が無かつたら、新經濟政策へ後退する様な果斷が出來なかつた。**ブレストリトフスク**媾和に膝を屈した、**レエニン**も見上げたものであつた。彼れは數學に長じたが故に、數の上から判斷を誤らなかつたと云ふ。偉ひなる哉**レエニン**である。彼れ歿後、中心人物を缺いて、益々**レエニン**追慕の深いものがあるのが首肯されやう。

學校敎育の普及が遲れて居ることや、文盲が國民の五割もある事や、選擧と云ふ選擧が殆ど指名で終る事や、國家保安部が軍事、經濟情報、投機業者、反革命を取締る上に絶對權能を持つ事などは、過渡期の露國では餘りに批難するは當らぬであらう。筆者は元來日露親善主義者であるが、露國の實情を知悉し諒解して居る事が兩國民接近の基調を爲すものである事を信ずるが故に、露國の輪廓を語らんとするのである。迂遠ではあるが古い歷史から始める。基礎智識がなければ徒らに皮相に陥るからである。

昨年の革命十年紀念祭に**ルイコフ**は云つた。新露國の建設は世界無産者の國際的事業である。人類史上前例の無い事實であるから、拾年間の實績の報告をする義務あるをおもふと。筆者は露國に淹留歳を超え、その山川、景觀、士女の交遊眼に熟し、耳に熟した。仍ち輪廓的露國を筆にするの義務あるをおもふて筆を呵するのである。乍然感傷的に、抽象的に漫然と、露國を語る事は出來ない、

露國々營會社を相手方として取引を處理し、信用を與え、永く露國の友人として立ち、日露經濟的接近、親善の實際的役目を果さんとする者であるからである。筆者の立場から云はんと欲するは、露國の政情は安定して居る事であり、着々として順路を向上しつつある事であり、政府の監理する貿易が、信用を重ずる決濟を爲すに何等不安の無い事であり、露國內に於ける利權事業經營は、組織化された勞働者を相手とする事を承引する外、日本內地と異る所の無い事である。

露の新進作家**ボリス、ピレニアツク**氏日本に來遊して日本印象記を書いた。噴飯に堪えぬ點が多々ある。限られた人々に接觸して、語られた事を克明に帳面に書き込んで歸つて纒めたもので、要は見聞探究の淺く狹い爲めである。此小冊子亦同樣の誹を免れない事であるが、彼れの如く想像の翼に乘つて書いたものでない事を云つておき度い。

露國

蘇衞士聯邦と言ふ新變態のものか、朧氣ながらも其輪廓を讀者の腦底に影ずれば足る。之れが私が此處に書き出した目的である。

「蘇衞士露國の產業の復活」と題する書物に**スタインヌツツ**教授の序文がある。之れを借用することにする。

御互の利害の衝突、之れが社會問題である。此問題の解決に昔から思想家は頭を絞つた。今日も然りだ。**ソクラテス**と**シセロ**は「汝等の欲する通に他に爲せ、他も亦汝に爲さむ」と云ふ金言を作つたが解決の楔とはならなかつた。「強い者勝の世に政治、企業、金融の凡てに亘り、強い者は弱い者を無視する。**ナザレ**の聖者は同胞愛を說いた。「汝の敵を愛せよ、汝が欲する如く他に爲せ」と。而るに自己愛は同胞愛よりも强かつた。中世紀に法王**グレ**

ゴリー七世及其後繼者は、地上と天上との合計を說いたが、天上の空賴みよりも地上の利己に急であつた。佛國革命は個人の權利に就て警鐘を打つた。同權、參政で社會問題解決を夢みた。**デモクラシイ**思想が全世界に瀰漫したが、此問題を解決しなかつた。宣傳、教育、新聞、雜誌、學校と言ふ武器を支配階級に與へたと言ふ、反對の結果を求めたに過ぎなかつた。政治上の**デモクラシイ**は社會問題を解決しなかつた。今後も出來無いのである。前世紀に科學的研究を遂げた**マルクス**の所謂「個人の利己心が他人の夫れと衝突し無い樣な社會を工夫し得る乎」の提案は、反社會的行爲の探究となり、私有及生產分配の監理が反社會的行爲の手近な原因で有る事が明かにせられ、此等を社會的に爲なければならぬと言ふのが社會主義であり、其目的は全く反社會行爲を無くした社會の創造である。耶蘇の同胞愛も十九世紀の實績に徵して利己愛に敗けた。社會主義は最早や人類の性情を變

へる事に因りて目的の達成を願はず、公共利の爲に自己利を壓伏せしむる新社會の創造を企てた。人類の性情を改變せんとせずして、社會を改變せんとするのだ。因て以て人類の向上を冀ふ先覺者は、有史以來の難問題を解決し得ると期した。參政の權無き者は依て以て社會進步に應分の義務を果たし得ると考へた。政治壇上に運ばれて、遂に機會は到來し、社會主義的共產を基礎として、社會の改造が露國に試みられた。

誤つたる政治が數世紀間繼續せられたる間に、教會の腐敗と相待つて、極端なる帝國主義となり、他の國家に見ざる慘狀を呈した。大戰の數年、封鎖、內亂、饑饉は資本主義的露國の元より弱い組織を破壞した。大戰の末期には、各國とも社會主義的社會の改造に着手したが、露國では其れが創造となつた。新社會即共產國の建設であつた。

前者の轍無く、また起り得る事象の豫見がつかぬ。一度の事は繰返すこ

とも必要であらうし、また異つた方法を必要とも爲よう。先覺を以て任する士に取つては興味多き事實である。目前の事實の凡てを承認し同意せんとするに非ざるは、恰もネロ帝よりデオワレチアン帝迄の、初期の基督教徒の行動の凡てに、同意せぬのと同樣であるが、新社會、自己利が最早他利と衝突せぬ事によりて當然反社會行爲を絕滅した、その社會の建設に如何に努力が拂はれたかを知り、且つ諒解することは肝要である。（一九二二、七、一〇）

一九〇五年の革命は、帝權獨裁專制政治に對する反抗であつたが、一九一七年第一次革命は立憲政治の確立を期するにあつた。國體問題を議するに先だちて**ケレンスキー**は、共和政體へと指導役をつとめた。政局は左へ左へと進んで、**レニン**の社會主義國建設へと推移して、第二次革命は露國を社會主義國とするに決定を與えた。無產者の獨裁する國家であつて、而して世界革命を建國の理想とした點に於て、世界無類唯一の國である。斯くして**レニン**は**ビスマーク**たらずして、**マホメツト**となつたのである。**レニン**の露國を說くが目的であるが、先づ**レニン**を生んだ露國を知る必要がある。

先づ順序として、露國なる全世界地域の六分の一を占め、人口一億五千萬を擁して、支那、印度に亞ぐ大國の實體を記憶して貰ひ度い。

天然條件　即露國の自然、之れは國民性と制度とを決定する重要な要素である事申迄も無い。

露國大平原は、**ニーメン**、**ダニウブ**兩河で西歐を限りとして、東に延びて**ヱニセイ**河迄連亙して居る。其廣大無邊さは地圖を展じて一考して貰ひ度い。白海より黑海迄、北氷洋より**ヒンドクシ**山脈まで、東は太平洋に面して、其海岸線五萬基米あるが、內二萬七千基米は北氷洋で、海上通商路は世界の何れの國よりも惠まれて居らぬ。

けれ共其露國平原は絨壇の如く全く平地で、最高所で三五〇米、平均一六八米、以て無高低さが想像がつく。中間に**ウラル**山脈があつて歐亞の境を爲すと言ふが、之れとて最高千五百米に過ぎない。殖民は十六世紀に此處迄到來して、以後は之れを越えて大平原の東部へ移つた。山と言ふものは高架索へ行つて初めて見得る。最高五三六〇米、他の地方では見度くても山が無いのである。平原國、平原生活、無變化、單調、加之一年夏冬の二季である。

ヴオルガ、**ドニツプ**、**カマ**の諸流河、更に西伯利亞には多數の大河があつて、此れ等が商路であり、同時に殖民、移民路である。從つて經濟上、政治上、國民團結に及ぼす處が深い。

農業を視ると、地味の良い事、森林資源の無盡なる事、を特に注意して貰ひ度い。**ガリシア**、**ルーマニア**の國境より**エニセー**河流域に到る、所謂黑土地帶の生產力は偉大なものがある。昔は雅典、羅馬、**ビザンチン**に穀物を供給した穀

倉であつた。穀產高は北米の一億八百萬噸に亞ぐもので、七千五百萬噸に達して居る。主として耕地の廣大に因る。林產の輸出量では革命前では世界第一位であつた。

工業を見る。工業要素に豐かであると言へない。**ドン**地方には石炭と鐵鑛があり。**ウラル**地方の鑛石地帶は有名だが、同地の石炭は骸炭とならぬ缺點があり。**モスコウ**石炭は灰分が多くて役立たぬ。西北地方、**アーヘンゲル**、**ボログタ**地方には石炭が無くて、一帶に所謂露國の大森林だ。

鑛業をも見る。有用鑛石及貴重鑛石は大抵のものが有る、有るには有るが其所在が大平原の端に在つて、遠距離に在る、東部**サイベリア**、**ウラル**山脈の東側、**アルタイ**山脈、高架索山脈と云ふ地方に在るのみだ。故を以て世人の評する如くに豐富利用し得るもので無い。

歷史的文化要素　之れ亦申迄も無く、國民文化の發達及國民性に影響する處

が多い。

史家の多くは**スラブ**族殖民を以て、此國の歴史の創めとするが、**スラブ**族が全くの原始國土に來たので無い、東方文化の空氣に育くまれた舊文明の跡地に**スラブ**族建國を見たもので、此**キエフ**文化は東方の影響を有したと想像するも無理であるまい。

古代文化の西部亞細亞、地中海、中部歐洲の三源流は青銅時代に、此國に流入して、初めは**メソポタミア**、**ターケシタン**、**エジプト**文化と連繫せる文化が存した事が地中の遺物の發見で明かとなり、次ぎに中部歐洲文化が最後に地中海、黑海文化が及んで居る。

陸商路は東國より**アゾフ**海へ

海商路は黑海―地中海―多島海―小亞細亞海岸へ、

河商路は**ボルチツク**海へ、

と交通があつた。

紀元前十乃至八世紀に、更に同八―三世紀に、二つの國が嚴存した事も明かにせられ、殊に後者は**ダニウブ**河より**ボルガ**河に到る國土を平定して、經濟發達を遂げ、其所産を黑海沿岸の希臘殖民を通じて輸出した。其文化は云ふ迄も無く東方のもので、宗教は拜日、技藝は中央亞細亞の傳統、制度は專制君主であつた。

希臘人は黑海沿岸に殖民したこれ無論南露の國富に引きつけられたもので、其希臘化に成功しなかつた所以は、東方來の文化の横流に壓せられた爲であらうが、兎に角當時の南露は、地中海世界に取つては重要なる穀倉であつた。紀元前三世紀に**ゲルマン**系人が南露を席捲したが、其文化は被征服者のそれよりも低くかつた爲めに何等寄與する處が無かつたが北、北西地方、**スカンヂナビア**諸地方との間に**ドニツブ**河による貿易を開拓した。

民族大移動が始まるや、**ハン**人は**ゲルマン**人を驅逐して、南露は其征服通路と

なり、東方の新波が新たに押寄せた。周代に發達した動物圖案が此時に輸入されたと云ふ。

ゲルマン族退却後の南露は、支配者の興亡は有つたが、**スラブ**族は**ゴート**族と結び付いた而し**ゴート**族が西方へ移動しても、**スラブ**族は依然留まつて其殖民は紀元五世紀に出發して居る。新國土を求めて、隨所に**ゴート**族の所領を奪つて舊來の通商路を其掌中に收めた。

スラブ殖民　**ドニツプ**河に沿ふて根抵を築いた。更らに東南方に伸びて、舊文化を復活し、舊商路を復した。以て**キエフ**商國の存在を確實にした。これが露國の芽生である。斯く云ひ來ると、**スラブ**文化を培つた、各種のものの存在を見る事が出來、同時に露國文化が荒野から生れたもので無い事が判る。露國にも大古時代があり、それが合成體のものであるとも云ひ得るのである。

九世紀には露國文化の三中心は(一)西北地方の**ノボゴロツド**(二)西南地方の**キエフ**、(三)東南地方の**ツムタラカン**で、これ等は政治、經濟、文化に於て全く獨自もののを有した。

ビザンチン文化の影響　希臘正教…即**ビザンチン**文化を齎らし、通商……即**ビザンチン**勢力と共に**彼斯**、**アラビア**の影響を露國に與えたは當然である。此頃の西歐は、文化全く廢頽して、僅かに命脈を繋ぐと言ふ有様、之れに反して四世紀―十一世紀間に東方文化は、全速力を以て此國に流入した。即支那、印度及**ビザンチン**、近東彼斯、**アラビア**の影響、勢力である。當時の**アラビア**文化は、今日の西歐の様に、交通系統を具備して、此大平原國と接觸した。露國は此等の直間接の指導誘掖を受けたが、七世紀になつて、直接**ビザンチン**と交通するや、直ちに此に感染して仕舞つた。希臘正教の勝利となつた。同時に希臘文化に對抗する、東方文化の抗爭があつて、此傳統を異にする二勢力の混和……或は**ビザンチン**文化の特長が、此露國に織り込まれ、侵潤し、根を生じたのである。由來**ビザン**

チン文化は東方文化に負ふ處深く、其結實せるものは、卽政府は絶對專制で、同時に絶對中央集權で其上に官僚があつて國家が教會を支配する行き方である。宗教も藝術も東方の感化が多い。當時の露國は、西歐の混沌たる封建時代に比すれば、遙かによく秩序が立ち、都市貿易、思想の活動は民人生活を刺擊したものであつた。

キエフ王國　**ドニツプ**河の商權發達に鋭意した**スラブ**族は、黑海と**ボルチツク**海とを連繫して、**キエフ**は遂に世界市場となつたが當時の事故元より人煙稀れで、商業都市を根據地とする、大露國領土の獲得、一國の創肇を企てた。斯くして直接**ビザンチン**文化を輸入して、宗教は勿論、美術、教育、工藝、衣服に到る迄模倣に努めた。其商業の活動及文化生活は、之れに垂涎する處の、北方平原に出た、北人南下の誘因となつて、**キエフ**は何の苦もなく北人の支配下になつた。此北人が**スラブ**族を糾合して、商事、軍事を中樞とする統治機關を造り、商業者の全支持

の下に、商路と國境の安固を期した。十二世紀の初め迄は、**キエフ**王國、卽全露大公國であつたが、北方の新興王國が擡頭して、其**アンドレボゴルブスキ**王に依て併呑せらるるや、王は故鄕を去るを欲しなかつた爲に、政治經濟文化の中心は**キエフ**を去つて北方へ移つた。

大露國集成時代　十六世紀に到つて、分立せる諸王國が糾合せらるる迄は、各王國は勝手な方法を以て處理し、共通の現象として無かつたが、唯だ一つ共通で有力なのは、**ビザンチン**の影響であつた。西歐では中央集權は、卽王様で、其次に中流階級が居り、其次に永久性の農氏が最下層級を爲して居るに反して、露國では國家構成の最上部と最下部の二要素、卽武人階級と、農民階級で、農民は土地に附着して、無慈悲に搾取せられた。故に中央集權々力と、國民活動要素との連繫を緊密にする必要が生じて、此處に官僚の發生を促がしたのである。

教會は國家の婢僕の役をした。教主は神聖であつた。基督教の採用はした

が基督敎の活動性の大精神を根元より切捨てた形式の希臘敎であつた。露國を西歐文化から懸絕せしめて東洋的不動性のものとしたのは、ビザンチン文化の頽廢的餘勢の然らしめたるものであるが、モスコウ王國の亞細亞式專制の因て來る處が此國の天然條件と頽廢期のビザンチン文化の影響のみだと見るは當らぬ。露國文化の停頓後退は實に十三世紀に於ける韃靼の侵冦に據るものである。十二世紀に伊太利諸都市の發達延いて其影響が**ポーランド**、**フィンランド**に及び露國に及ぶは當然で、**キエフ**や**ノボゴロツド**が西歐と交貿したのも自然の勢であつたが、此西方勢力感化は、未だ**ビザンチン**感化を凌ぐに到らなかつた。露國が西方文化の圈內に入り初めたのは、十三世紀の始めからであるが此時に韃靼の侵略を受けたのである。絕大な災厄であつた。

韃靼侵冦　蒙古遊牧人は、全亞細亞東部歐州に亘り、其征服途上の都市、民人、文化を蕩掃した。其の其餘勢は西歐に到つた。近東に於ける文化は完全に破滅せ

られ、之が恢復の爲めに、支那も印度も數世紀を費して居る。單なる劫掠に止まらず、數世紀に亘つて、支那文化を藉り來つて、其軍制及統治の組織を立て、財政賦課に於て官僚的方法を採つた。軍隊は精良の武器、優れたる規律、當時無比の能率を示した。恐怖制度を軍事上のみならず、行政上にも轉用した。即ち極端なる威壓政策、卽敵をして全く無抵抗ならしむる奴隸制、定期的民人檢閱賦課徵發の制度を造つた、其結果露國諸王は何れも單なる集稅官となつて了つた。死を擇ぶか、自由を採るかと言ふ鐵則と、武力とを以て臨んだのみならず其統治の永續したのは、財政策に長じた爲めであると言ふ。兎も角、韃靼の侵冦統治は露國文化に直接の大影響を及ぼした。語を換えて言へば、當時世界文化の中心となりつつあつた西歐から、全く絕緣して、蒙古國の完全なる一部となり了したのであるから、全露を征服した一二三七年は露國の運命を決定したとも言ひ得る。政治及文化の中心は東方へ移り…**ウラジミル**、**スズタル**…後に**モスコウ**…大平

原の西歐から離隔して東北隅へ…天然條件の殊の外、不良なる地方へと遷つた。一二二四年に有名な**カルカ**の戰があつて、露軍の大敗となつた。**モスコウ**及**キエフ**を降して蒙領とした、一二三七年は、我北條執權三代泰時の時で、元人の對馬入寇より四四年前の事である。是より二百五十年間、全露國は蒙古人の統治の下に居た。**モスコウ**王國が崛起して、最後の韃靼王の居城**カザン**を陷入れたのは、一五五三年で、我が足利十三代將軍義輝の時である。嗚呼此長き二百五十年よ！

韃靼統治二百五十年の總決算は、社會、政治組織の大變化である。舊文化發達過程の變化停頓である。思想、精神文化の枯滅である。工藝美術の衰亡である。**ノボゴレロツド**、**ウラジミル**、**モスコウ**の傳統の絕滅である。智的、並に道德標準の低下後退である。都市は特別の役目を失つて、農村の集合たるに過ぎなくなつた。農民は土地に附屬して、農民の失ふ處は王樣の得する處となつた。韃靼

の勢力が自然衰亡して代つて現れたのが**モスコウ**王であつても、政治行政は既に韃靼學校を卒業して居るから、其の通りの東洋式專制、絕對獨裁、組織諸制度を自家の鑄型にて作り、之れを制禦するに强い官僚政治を以てした。王は韃靼王の下の集稅官から漸次に露王領を糾合して、**モスコウ**王になり了した。韃靼統治は露國人を奴隸たらめたが、**モスコウ**王樣は依然其政策を其儘襲踏した。

モスコウ王國（一四六二—一五九八）**モスコウ**王は、實に恰悧な對內策を取つた。常に韃靼の監視を怠らせる樣に、無抵抗主義を採つた。既に一三二八年に大公國の稱號を許されて、他の無稱號王樣を埤晛した。**モスコウ**は宗主敎所在地であるから、宗敎の力で人民を釣つたのである。外敵に備ふる爲に、中央權力を希望する、人民の時代精神に應じたので、**モスコウ**、王國出現は容易であつた。畢竟油斷をさせて巧に壓制の羈絆を脫したのである。十五世紀の後半に入つて領地併合け國民的宗敎運動となつて、社會、宗敎政治の力で此の目的に押し進

んだ。領土擴張、殖民國是に國民意識を集中して全露人一致團結した。王の尊嚴を飾る爲めに、**イワン**三世は、東羅馬最後の皇帝の姪**ソフィアペーロオログ**を娶つて、**ビザンチン**即第二羅馬の後繼者となり、**ビザンチン**宮廷の全部を摸倣し、二頭鷲を家紋とした。斯くして國民的意識は、自覺より自負へ、他國民を見下し而して他國を猜視する樣になるものだ。國の統一と擴張とが共に働いて、殖民は北方の森林地帶、東方の沙漠地帶、東方の西**ベリア**に及んで屯田兵制を布いた。此の政策は當時の國民人氣に投じた、自發的運動とも見られ、國家は此人波の移動に辛じて追從したとも云へる。十七世紀には大平洋岸に達した。露國の殖民は企業的に出たものもあるが、大部分は逃亡移民で、饑饉、宗教上の迫害、苛斂誅求、農奴の苦役から逃遁する者が多かつた。

領土擴張政策の結果は軍人と軍費とを要した。軍人へ土地を頒つて酬ひた。此の制度が後に迄繼續せられた爲めに、軍閥は大地主となり、同時に地方官吏、財

務官、裁判官を兼ねた。其初めは地主と農民との關係は、税の支拂を以て終止したものであつたが、十六世紀の後半より十七世紀の前半の一百年間に、何人も氣の付かぬ間に農奴制が出來上つた。農民は共有制……連帶責任で、國家の徵發に應ぜねばならなかつた。

內亂時代　**イワン**暴帝の親衞兵の反亂があつた、其主因は王位簒奪で、延いて色々な社會分子の鬪爭となつて終つた其結果中央**モスコウ**地方と、西方**ノボゴロツド**地方は多年の戰爭、無秩序のために、農業、商業は破滅、荒廢の極、下層民は絕望して、北方へ至るもの、**ボルガ**地方へ逃げるもの、南方へ行くものが踵を接する有樣で、此間貴族や舊官僚が血に飢た帝の犧牲となつたもの數を知らず、荒廢、戰爭、恐怖主義制度は、**モスコウ**王國の破綻を、當然な歸結としたが、外國干涉特に瑞典、波蘭土が**ノボゴロツド**、**スモレンスク**地方を占領するや、**モスコウ**王國の獨立の體面の維持、國內無秩序と言ふ、國步艱難のドン底に陷つて、此處で國民意識

が熾烈となつて、**モスコウ**王國は、外敵に向つて、一致協力以て抗爭せなければならぬと敵愾心を奮起した。此內亂時代が生んだ結果として帝王が缺けても國の存在に變りの無い事、農奴も市民である事、中央機關が破滅して地方機關が發達し有力となつた事、社會要素が何れも有力になつた事である。政府は諮問機關を特設した。此機關は貴族會議、僧官會議、地方會議(軍人、地主、官吏商人と政府の指名者後に民撰となつた)から成立したが、地方會議は後に農民代表を加へて立法に關係し、皇帝撰出迄もやつた(一五九八年**ボリスゴドノフ**、一六一三年**ミハエルロマノフ**、一六一九年宗主教、一六四五年**アレキシス**即位承認等)が、皇帝の勢威が強くなれば、反對に此機關の勢力が減退して、一六五五年に全滅した。外國干涉の結果西歐軍事の技術其他の智識に刺擊され精神及智的の影響西歐服裝の摸倣、**ポーランド**出版書物の輸入、宗教並政治上思想の變化、**バルチヅク**、及**ノボゴロヅド**占領のために外交政策の變更等となつた。

十七世紀の**モスコウ**王國は、全領土に二百五十の町があるのみで、都市人口は全人口の二厘五毛、內國商業は不振、外國貿易は名許の狀態であつたが**ポーランド**や**リボニア**は王國の歐化開發を恐れて、戰時用品や、技師職工迄もやらぬ樣に監視し、遂に**モスコウ**、**ノボゴロヅド**通商の通航を禁止した。其處で**イワン**三世が武力に訴えて自ら海港を拓いた。此時**ハンサ**同盟が、**ノボゴロヅド**を根據とし、西歐と露國との貿易を始め、露人は其下請人となつて滿足した。之に對立して英人が競爭的態度に出て來て、一五五三年國內到處支店を設けて、直取引を始めた。免稅、商業獨占、彼斯通過貿易等の特權を得て、大に發展したが、**イワン**帝歿後特權の多くが撤廢せられた。十七世紀の後半になつて**モスコウ**に外人居留地が出來、獨逸人が主として居住した。

斯くして**スラブ**族の殖民繁榮には、困難と試練とが伴つたが、再び西歐文化と結合する道に出た。即十七世紀末になつて**キエフ**、**ノボゴロヅド**の舊露國と新

露國とが結合した。

西歐では、羅馬文化の故地に歷史的存在を印し、同時に混血した文化を生んだが、**スラブ**文化は全く別個切り離されたものであり、**ビザンチン**を通して西歐文化を受けたのであつた。**ビザンチン**が元來混成物で、東方の香が强いものであり、殊に**スラブ**は東方の影響の多くを吸收し來つたものであつた。耶蘇教を採用した爲めに、**マホメツト**に入らなかつたが**ビザンチン**より取つた爲めに、西歐文化の浸潤を障けた。韃靼覆滅後は宗教のみならず國民心理を決定した。此影響は大きいものである。

西歐方面は地形上各國の形成で塞がれたが、東北は無限だから、此方へ仲出した爲めに酷い氣候に抵抗する努力と、忍耐が特性となり、不可抗力に絕對服從、外界の變化に對する沈着、無關心の性質を造りあげた。

東北方へ引き込んだのと、**ポーランド**や**リスアニア**が西歐文化の障壁となつた爲めに、**スラブ**は其運命の開拓を自らするの外は無かつた。

韃靼壓迫の下に國家組織を一變して、專制帝の下に農村の國と退化し、生活、思想の上に受けた影響は大きいが、夫でも歐風と言語と宗教とを維持した。

韃靼覇權の解體には成効したが、西歐文化と接觸し始めると、十六世紀以來瑞典が敵となつて現れたから國防に力を集中し專念した。之れが爲めに社會制度の權利、地方自由等は顧みられず、國の急務の前には犧牲となる外無く、國の全力を政府に集中した。貴族も、公子も專制王の僕婢となつた。農民は土地に附着して家畜の一部となつて了た。故に東南方へ逃亡移民が殖えて、却て中部地方人口が稀薄となつた。

饑饉、暴動、外國干渉の場合には、國防其他應急手段に國民の協力を求め、民意の尊重をもしたが、事後に主權者は直ちに高壓手段を弄した。官僚制を創始し、私權の喪失、人民は奴隷と言ふ有様而して西歐を見れば科學、技術の偉大な

る發達、之れ等を吸收するのが國家の急務で、他は顧みる處で無つた。

ロマノフ王朝

波蘭軍を撃退した大勇者、**ポジャスキー**は貴族、富商、僧官と協議して、皇帝撰定をやつた。當時波蘭へ和平の使者となつて出向した僧官、**フエオドル**の子**ミハエルロマノフ**を撰んだ。時に歳十六。無難が取り得であつたらう。兎に角大露國に君臨する運命を拓いた。爾來三百餘年間**彼得**と**カザリン**が傑出した。遂に大露國を造り出した。一七一三年**彼得**は群議を排して、**ペテルスブルグ**に遷都した。**ネバ**河口の**デルタ**、沼澤の地、瘴煙蠻雨を征服する爲めに死する者算無し。死屍か基礎を爲すと言ふ都である。彼が意氣を物語るでは無いか。彼れは實に歴史を劃するものであつた。社會政治事相を拾つて見よう。

教會 行政の一部となつて國家の頤使に甘んじた。國家に信頼した結果官僚化して終つた。國民の精神生活は既に宗教を去つた。けれども正教の遵奉は熱烈であつた。異教徒の迫害となつた。露國の革命運動は、過去に於ても、今日に於ても眞に宗教的眞面目である。宗教を取扱つた文學の多い事も、特長であれば、基督の教理に基く國を建てんとするものも出た。**トルストイ**の様な內省で完成人たらんとするものも出た。けれども教會は國權の保護で大地主となり、金持となり、其勢で自腐した。古い形式の墨守に終つた。時代の人民とは離れたものを、無理に押付けた。生れて教徒となり、生長し、而て老ふ、露人の生涯は教會で明け暮れする式であつた。

西歐化 西歐の窓を通して文物の發達に驚倒した。其技術の輸入に熱中した。文學、科學、美術も共に來た。**彼得**の鞭で追はれた國民の歐化は、靴、**レース**、鬘、衣服に及んで、宮廷は勿論**ベルサイユ**摸寫となつた。新生活、新思想、新趣味、新要求が起るのは當然である。上流者と下流者との間が開き過ぎたのも當然、上流の歐

化が皮想的で、受働的であつた事も當然であるが、若い者は新來の西歐思想に卷き込まれて、インテルゲンチヤ運動となつて、理想と實際の矛盾に不平が出る。此新事態に向つて、政府者は壓迫が唯一の信條だ、手段だ。反動がプカチヨフの亂となつて現れると、社會的政治的自覺が起こる。那翁戰で多數の者が西歐の文化に接した。弱者を思ふ思想、高い理想、人道正義の主張が旺んとなつた。佛革命の直接影響で、新社會相、新政治組織を欲求するに到つた。

デカブリスト 專制が吾人を壓迫すると叫んだ。政治的活動は公的手段であらねばならぬと要求した。一八二五年亞歷山一世歿し、後嗣爭に乘じ、ニコラス一世卽位の日に、教養ある貴族、護衛兵が直接行動に出た。政府の改造、特權の廢止、農奴解放、國法に對する獨立資格を要求した。憲法を定めて、君主對人民の干係を定めん事を要求した。十二月十四日護衛聯隊が元老院の庭に集まつて、公々然と着手した。勿論大なる遺算があり、悲慘な最後を告げたが、吾人は後世

に範を垂る可しとして、公衆の支持と同情に訴えたのであつた。其高潔な理想と確信とは、後の國民を誨ふる處が多く、後のインテルゲンチヤ運動の特色が之れに依て明瞭となつた。

農奴 彼得、カザリン以下英主が出る程、租税の誅求は酷となつた。農民は遂に貢税の具以上として認められぬ。地主が集税、裁判をやり、地主農奴は人間で無くて物品であつたが、更らに貴族が地方政治に干與して警察權を握つた。農民に自由の有り樣が無い。

擴張政策、殖民國定 海上通商の誘惑で、十七世紀に東方へ進出して、太平洋岸に達し、十八世紀にバルチツク進出を達成した。十八世紀末に黑海へ出た。カザリンの殖民大擴張は、ボルガ地方、高架索に及んで、經濟大振興をしたが、依然農業國たるには變りが無かつた。

工業 彼得は軍事用の工業を起こした。カザリンに到つて、工業の獨占を廢し

て、工業大發展をやつたが、都市住民は人口の四%に過ぎなかつた。十八世紀末に到つて漸くに一般の需要が、軍事需要よりも大となつた。十九世紀の中葉に、大量消費工業を起こして自由勞働者を採用するに到つたのは獨逸の工業發達に刺撃せられた結果であつた。

國運　擴張政策に伴つて軍事上の要求が國家の主要項目となるは免れぬ。其前には凡てのものを犧牲にした。常備軍の數を擧げて見ると、**彼得**の歿する頃一七二五年)二十萬。露土戰(一七八七年の頃)四十萬。那翁戰(一八一二)の時八十萬。**クリミア**戰(一八五三)一六〇萬。以て其軍事偏重を見る可しだ。

對外關係　一八二八年瑞典と通商條約を締結して以來、北米、英國、彼斯、支那(一八五二年)と修好の道を開いた。佛蘭西革命で佛國が弱り、那翁戰で露國が幅を利かした。此國の國際的位置は一飛びに高くなつた。其外交策は國家の利害よりも、寧ろ外來の思想の取締り、卽革命思想の防止にあつた。

對內問題　農奴解放、民法的私權の確認、國民教育、司法行政の分離、地方政治の組成等が憲法制定問題、國民經濟問題と共に押し寄せて來た。之れが對策は**カザリン**は着手したが果さなかつた。**ポール**は再び其れを覆へした。**アレキサンダー**一世は志して爲し得なかつた。**ニコラス**一世は反動政策、一念現狀維持官僚一點張りで**クリミア**戰に國際政局へ乘り出した。

クリミア戰(一八三三年)は露國に教ふる處が大きかつた。財源の涸渇、國民經濟の破綻が國家組織の變改の急務を告げた。農奴の解放、司法制度の改革、學校の新設、印刷の自由、地方政治の改良等々の急務を教えた。

農奴解放　一八六二年貴族**ヅベル**の献議に據て、農奴解放をやつた。多數貴族の反對を排してやつた。其結果十九世紀の後半に**ミル**制が發達した。露國特有の共有的相互扶助組織で、耕地共同用益、定期的割替が特長であつた。不遇なる農民相互の間には多大の慰藉であり、扶助機關であつたが、後には人口の增

加に因て農民破綻の因を造つた。

農奴解放當時、貴族の所有地は一億萬町歩であつたのが、一九〇五年には五千三百萬町歩に減じ、農民の買取つたものが一千六百萬町歩であつた。後の耕地革命も、**ボルセビキ**革命も、此殘つた五千三百萬町歩の貴族所有地の爭奪に過ぎなかつたとも見られる。斯う見る可きであらう。

インテルゲンチヤ　農民生活を描寫せる小說、社會小說が人氣に投じた。國民生活に關する興味、社會問題が人氣を呼んだのである。讀者は新智識を取扱つた讀物を歡迎した。智識階級は農民に接して、革命的變化を速ならしめんとしたが、農民は寧ろ馬耳東風であり、同時に此運動は政府に反するものであつた。政治組織の改革に絕望したものは**テロイズム**に走つた。**アレキサンダー**二世の暗殺、忽ち虛無黨撲滅令、反動壓迫に依て**インテルゲンチア**運動は擊破されたが、共鳴者の增加と共に其性質に變更が生じ、多衆黨、**マルクス**黨、自由主義と云ふ政派に變じたが、警察制度の發達した此國では、政派の形で運動は出來なかつた。

心あるものは露國の將來を深憂した。それは行政、政治組織が經濟、文化の發達に伴はぬからであつた。舊制度弱點の暴露である以上、新勢力到來を認容せねばならぬ。斯う云ふ場合、官僚が善處しても又、國民は其決定に無理服從しても、二十世紀に於て採る可き方法では無かつた。國民は西歐文化に接觸して、露國の後退を明かに知つた。況んや**亞歷山**二世の改革が時旣に遲く且つ誤つた。かく反動政策で折角の改革を無効に歸せしめた。政治、經濟の問題が二十世紀に入つて遂に官僚を倒したのも自然の成行である。

二十世紀初頭の露國

皇帝と臣民との關係を定めた法律がない。特權階級や、國民の希望を開陳する議會が無い。皇帝の意志が絕對の法律。行政の長官は皇帝である。政府大

臣が凡て平等で、其間に優越的地位が無い、無論總理大臣の地位に實質が無い。責任内閣が無い。

責任の無い内閣。政治は專制。妥協の餘地の無い專制。斯う言ふ國家組織の上に近代の國家が立つ事は出來ぬ。

官僚拔扈 絶對主義の皇帝の下に、絶對權力の支持に努力したのが貴族と官僚だ、昔日の官僚は貴族と地主とであつたが、後の官僚は金錢報酬で働くもので自然御都合主義となるは當然、貴族の大部分が貧乏して役人となれば、直ちに人格的能力を失ふ。官僚の下級者は收入が尠い、自己利益增加に所有機會を利用するのも當然、此の連中は一般的教養が低いが、中央に集中して一億五千萬人を統治した。權力の濫用腐敗……唯一の武器は警察、憲兵、探偵……私的生活の實驗……政治上の自由は阻止される。探偵警察の批難を受けぬ市民は無かつた。驚くべき警察制度の發達であつた。

亞歷山二世の新生面打開策に續いて、**亞歷山**三世の反動策、卽帝は國民のために善だと判斷した事を官僚の力で決行した。會合の禁止、捕縛、官吏の解職、私人の流刑、大學閉鎖等の權力を警察當局に與えた。全露の人民と組織が一の絶對監理、警察眼の下に置かれた。裁判權獨立の制限、農村**ミール**の監視干涉、地方會議活動の制限、下層人民子弟の中學に入る事の禁止等と時代逆行をやつた。

官僚外交 無責任なる官僚は對支積極政策で各國を憤らした。一九〇三年二月十六日**クロポトキン**將軍日記には、皇帝の頭に畫かれたる計劃は、朝鮮の併領、西藏、彼斯、進んで**ボスホロス**、**ダーダネルス**の占領であつたとある。

獨帝**ウイリアム**は日英同盟に對抗する、露獨佛條約を策して、一九〇四年十月十日**ニコラス**帝へ電報すると、直ちに同意の返電で草案の提示を求めて來た。**ウイリアム**は草案が明かに佛に不利、豫め示せば破棄に導く恐れがある、事後に示すべきだとしたから、甘く**ニコラス**を卷いて終つた。**ニコラス**は露佛條約の

存在を忘却して、一九〇五年七月十一日快遊船中で調印した。**カイザー**に懐柔せられたのだ。外相**ラムスドル**伯が之れを聞いたのは三ヶ月後であつた。**ビウロウ**公は反對して辭職すると言ひ出した。**ウイツテ**伯、**ラムスドル**伯、**ビウロウ**公及**ニコラヴウチ**公の力で此條約を取消した。大帝國の運命が此意志の弱い、皇帝の危なつかしい氣まぐれに左右せられたものだ。**亞歷山**三世は、努めて歐洲政局から圏外に立つて、以て立憲の惡習に染まず、絶大權の官僚の維持を冀つたが列國は此國を平和な絶縁に放置することを爲なかつた。

經濟狀態　大戰當初、**レニングラード**には、十四の大工場が、十三萬人の職工を有して、皆外國炭を使用した。之れは一例であるが、市場、燃料、原料に遠隔な地に工業集中をやつたなどは、經濟本則に矛盾、政策の不確固を示すものに外ならぬが、農奴解放と西歐との接近で、富の程度は低いが、國民が多業なる丈に、工業製品を何程でも吸收した。國民經濟の發達は大なるものであつた。一八九八年の

人口は芬蘭を除き、一億二千五百六十四萬人、其後大戰迄の年増加率一、七%であつた。

石炭產額

產額	國內產炭	外國輸入炭
一八一五年	四百二十六萬噸	—
一九〇九年	千八百四十萬噸	三百五十萬噸
一九一三年	三千五百七十萬噸	七百六十四萬噸

鐵工業、生產高

一八九五年	五十五萬噸
一九〇五年	百六十六萬二千噸
一九一三年	三百五萬八千噸
同年年消費量約	四百萬噸

機械工業生産高

一九〇〇年　三千三百六十萬留布

一九一三年　一億留布

農具

一九〇〇年乃至一九一三年間に、國內生産は八倍に增加したが、一九一三年の輸入高は五千五百萬留布

紡績業

一九〇〇年乃至一九一三年間に倍加した。

一九一三年全消費棉花二百五十萬八千俵

右の五割五分が國內産棉花で、四割五分が輸入である。

麻工業

一九〇〇年乃至一九一三年に倍加した。

國內産原料の四分の三は輸出された。

以上の諸例で一般を推すことが出來よう。此れ等工業の發達は、一に保護政策に因つた。けれども工業を培つた決定的要素は、農民の經濟發達であつたとは言ふ迄も無い。

		穀物食料品	原料品及半加工品	動物	製造品	%
輸入%	1802—1804	39.0	24.0	1.8	35.2	100%
	1908—1912	19.1	48.5	0.9	31.4	100%
輸出%	1802—1804	19.4	70.1	2.1	8.4	100%
	1908—1912	60.8	33.1	1.7	4.4	100%

	平均輸入高	平均輸出高
1909 — 1913	1140 百萬留布	1501 百萬留布
1891 — 1900	535 百萬留布	660 百萬留布

內外商業

外國貿易の進步と共內容の變化を見る可しだ。此內容の變化が、革命前後の露國々民經濟の基調を爲すことを忘れることが出來ない。英獨の對露關係が變つた、卽十九世中葉には英國取引が三割三分六厘であつたが、一九〇〇年には一割七分九厘に減じて、其代り獨逸が三割四分二厘となつた。一九一三年には、英國より輸入は一割二分に減じ、獨より四割七分四厘と增加した。同年輸出は英國へ一割七分五厘獨へ二割九分七厘。露獨經濟接近。大戰と同時に御互に困つたのも無理が無いことである。

西伯利亞の發達

一八八七年　人口　八百十八萬四千人

一九一七年　人口　千四百四十萬人

耕地面積　一八九七年　一一、一五六千エーカー

一九〇〇年　二四、〇七九千〃

一九一七年　三二、四五三千〃

穀產輸出高二百四十二萬噸。バター輸出高八萬噸と言ふ數字が擧げられる。西伯利亞鐵道も收益事業とは、誰れも思はなかつたが、一九一一年には既に千三百萬留布の利益を擧げた。石炭の產額も百九十九萬噸に上つた。西伯利亞の開發は今後の問題であり、其影響たるや大であるが、前述の發達より考ふる時には實に恐ろしいでは無いか。

勞働問題

西歐では此運動は、組織された形式を取つて進んだが、露國では嚴禁されたが爲めに盟休は直ちに亂暴な破壞的性質を有するものであつた。此破壞的な盟休騷から、工場法規及勞働法規が出來た。大規模工業の集中、勞働者多業の集中生活が、階級意識を高調せしめ、此問題を紛糾せしめたが、政府者は勞働者の愛國心を信じて事態の重大なることを認めなかつた。

一八八一－八六年盟休參加者八萬人

一八九五―九九年盟休參加者四十三萬四千人

工場檢査官を設けたが盟休運動や、危險な宣傳流言の監視となり了し盟休參加者は禁錮流刑に處せられた。勞働者の集合、組合組織を依然として禁じた。故に勞働者は國民經濟の發達に對して興味を持たぬは勿論地下室で革命の使命に就ての長廣舌に耳を傾てた。

農業　一九〇〇年の穀產高六千三百萬噸、一九一三年七千八百萬噸、二十世紀に入り露の平均輸出高千六十萬噸で歐洲の總輸入高の二割七分四厘に達した。

國際貿易上の重要性を有する農業の指導發達の事務を、地方自治機關に爲さしめて、政府自體は何等施す處が無かつた。或は低利資金の運用とか、教育とか、技術上の指導とかは、政府の關せざる處であつた。農民は法律上の位置が非常に低く、これを引き上げる代りに、何處迄も現狀維持が政府の方針で、日常生活に現れた差等待遇は非常であつた。政府に於て行政に於て、軍隊に於て、政府は單

に財政の見地から、貢稅機關として農民を見た。　干涉、監理を敢てして其發達を防げた。　露國の農民に絕望的自負がある「農夫は自分の頭から凡ての物を造らねばならぬ」と言ふ。卽ドン底生活から農事改良の遂行、生活標準の引上げ、教育ある都市民の教育まで農民の負擔だと言ふ事なのである。

農奴解放後農民の所有に歸した耕地の割前は、平均二町半位で、甚だ尠かつた。地主貴族は未だ相當な地積を持つて居る。　幸運なる軍人が土地の賦與を得た事……土地所有の經過を知つて居る丈に、農民は地主を目するに、大なる不正の化人を以てし、且つ怨恨を抱いた。

何れにしても大問題は農村人口の增加である。　農奴解放から四十年間に七割九分の增加だ。　一戶當り、一人當りの耕地割當の減ずるのは當然だ。之れが解決の急務、耕地に對する農民の主張、事態は重大である。　耕地改革、卽地主及國有の土地分配を基調とする農村問題、生產增加問題、西伯利亞移民問題に對して

政府は袖手傍觀、無策であつた。貧に泣き、土地に飢えた農民は、唯一の途に趨いた……農民暴動であつた。

一九一六年統計に據ると、人口百人當り耕地面積は、丁抹二三八、佛二八三、歐露二二七エーカーである、歐露の人口過剰問題は蓋し重大性を有する。

小國民問題　三十五種以上の異民族の集合で、其内指導的位置に立つ大露人は四割三分である。大露人の文化的勢力は常に優越であつても文化的經濟的標準の異れる多數民族を抱擁する事は、國の組成上重要性を有する。露國生活の中心問題とも云へるものである。壓迫專制の傳統の下に、異民族の統治は矛盾撞着を極めた。随て民族意識を高めて、高むるに從て其對策は慘虐亂暴となつた。其結果は國の威信國の生存問題と重大化した。

民主々義運動

ミールの幼稚な共有制度も、往昔は平和な樂園の様に思はれもしたが、人口の增加は徒らに共喰ひの共倒れを演出して、唯一つの欲求は耕地の增大であつた。地主の所有地を農民へ奪取する要求であつた。征服露國の政府は、何事も金が先に立つ、租税は愈重課された兵役は強いられた、凡てが農民の負擔であつて、農民は社會の下層に措かれて動物視せられた。幾多の同情者と論者が、農民の自覺を喚起して、社會運動、政治運動、革命運動と波及した。**彼得**が西歐を見てから歐化、西風東漸、工業が起こり、勞働者が生れ、資本家が生れた。勿論資本家は勞働者を冷遇した。所謂勞資の闘爭が、專制政治の下に行はれた。十九世紀末に及んで、智識階級と連合して政治運動となつた。

新智識の波は、西歐より露の大平原を洗つた。其波は佛革命の餘波であり、影響であり、獨逸哲學であり、先進國の新生活、新社會觀であつた。反動政策の專制壓迫、捕縛、流刑の遠慮會釋の無い未開化未文化の國土は、此波に洗はれて、新來思

想と四圍の事情、教育と道德倫理と行爲、思ひ合せて矛盾に驚いた。新青年は此波に捲込まれる外は無かつた。**ミール**の共有制、其社會性は露國の專賣で唯一の特長である。正教の信仰が確乎と、露國の精神を支配するではないか。此兩者が露國の精華であり、西歐に無きものだと言ふ國粹純露主義も生れた。**ミール**制の下に、共有の共樂を有する露の農民は、佛國革命に於ける勞働者に相當するものだ、社會主義的革命は此の共有性を擴充して、先づ露國で達成せられる。露は西歐に對しては、革命の酵醐であらねばならぬ、と言ふ**ユートピア**說も生れた。

ミールの共有制に共鳴して、之れを基礎として政治の**デモクラシイ**を實現せんとする共產主義も生れた。吾人の享有する便宜、思想其他は農民の惠與による。故に吾人の教養は、之を農民の爲に捧げざる可からずと主張した**ラルトフ**。吾人が有する唯一の遺產、**ミール**共有制を改良發達して新社會組織に達すべし

と主張した**チエルニシエフスキー**。此等の哲學と經濟學說は、世の青年の血を湧かした。農民大衆の生活に關する問題を大きくした。新思想の大波小波が、全國を席捲すると、露國人の特性が現れる。破壞性が強く、建設性が弱い。凡てを知る秘密委員の一人に、他の多くが盲目的に服從する新氣風が醞釀された。官僚の代表者に對する、恐怖主義の勇敢なる行爲として現れた。重大性な政治運動が、全國的に蜂起した。其目的は官僚政府を倒して、立憲政府を建つるにあつた。官僚の絕對權に代ゆるに、代議政體を以てせんとした。忽ち高壓、壓伏で左傾派は勿論、中庸、穩健派迄國外へ遁逃避難するの外は無かつた。逃げ遲くれたものは、投獄、流刑、洩れるを許さなかつた。國外へ出たものは協力集中、益々銳意した、死力を盡した、懸命した、身命を鴻毛の輕きに比した、實に精神一到何事か成らざらんやであつた。八十年代に**ブレハーノフ**に依て**マルクス**主義が主張せられ、九十年に**レニンウリアノフ**、**マルトフ**に依つて勞働階級の自由解放同盟が

主張せられ、一八九八年**ミンスク**市に、社會主義勞働黨が結社せられたと同時に、地方政治革新先鋒論者の末流に依つて、立憲民主黨が生れ、共產主義者の末流に依て、社會革命黨が生れた。憲法議會とか、社會主義とかの言葉の使用が許されたのは、舊るい事で無い。

一九〇五年革命

今より三十三年前、**ニコラス**二世卽位の機會に、全露聯合して、國民の立法參加、政策變更の陳情をしたが糠に釘であつた。

露國官僚の對支積極政策は大失敗であつた。遼東還附問題に恩を賣つて東支鐵道の布設權を獲、獨の膠州港獲得に均霑して旅大の地を租借し、更に南滿線を獲、北淸事變に乘して、兵を滿州に駐めて去らしめず、進んで馬山浦租借問題龍岩浦租借事件を惹起した。實に官僚の妄動であつた。遂ひに勢に乘じて日露

戰爭へ盲進した。**クリミア**戰爭と同樣に、上流官僚、小數宮廷臣の手に、大露の運命を托する官僚錯誤を暴露した。盲目なる官僚は、政治、社會問題に對する國民の視聽を、轉換せしむるために、好題目として、對內策の上から日露戰に乘り出した。之は大なる見當違ひであつた。露の革命家が、日露戰を德とするのは、此戰爭の結果が、官僚自滅を生んだからである。**クロポトキン**將軍の日記を見ても、**マラビエフ**伯の日記を見ても、達識者は危期の逼つて居る事を洞察した。現制度の危險を豫感した。官僚の味方は愚者、無骨漢、盜賊の外には無かつた。俄然農民暴動は、各地に蜂起して、地主の所有物を掠奪した。勞働者は盟休して騷いだ。共に革命の峰火であつた。

一九〇五年正月赤の日曜日に、僧侶**ガボン**が率ゐる大衆は、宮廷前の廣場へ向つた。苦悶の嘆願を帝の膝下にせんが爲めであつた。聖像を揭け讃美を歌つて進んだ。**コザツク**の苦兵卒の劍と銃、武裝を以て此多衆に臨んだ。虐殺の數

時間は白雪の廣場を赤く染めた。

寔に聖代の不詳事である。時と共に、官僚は變つても、遂に絶望だ。力のみが改革の實行手段であると、國民の胸に刻まれた。其夏には誰れ憚る處なく、公々然と積極的行動を以て、各政派が一致して立つて、官僚に向つて宣戰した。此時勞働組合聯合が出來て、君主政體に代はる共和政體を主張した。**トロツキー**は其一人である。小民族も、新露國の建設熱望に於て大露人と一致した。要之一般的要求は(一)地方自治體に對する壓迫の撤去、(二)演說、集會、組合の自由、(三)皇帝より臣民迄の法律干係の制定、(四)法律に對する平等、民刑事々務に對する政府の責任、(五)國家統治權に人民代表議員の參加等であつた。

皇帝中心官僚も此處に到つて、立憲政體の約束を以て、一時遁れの人心緩和策をやつた。それは有名な十月詔勅で、個人の權利と自由とを基礎とする、立憲的組織に立て直す事であつたが、直ちに反動勢力が現狀支配者となつて、前約を修正したり、貴族地主が無賴漢を使族して、反智識階級思想や、反猶太思想を愚民間に宣傳したりした。兎も角、成立した、第一議會は土地問題の討議に際して、地主の反對に依て、六年七月七日突如解散の運命に遭つた。其影響は直ちに君主立憲政體的基礎に立つ、熱烈なる希望の實現に、一大支障だと肝銘せしめた。

筆者は烏蘇里鐵道の起工式に臨席するの途、我國に立寄られた**ニコライ**帝を想起す。奇しき運命の人であつた。史家は**ブルボン**家が忠實に、堅實に其途を步んだなら、佛革命に際して、危險を脫して、政權を維持し得たと言ふ。**ロマノフ**家の上にも移して以て同じく云へると思ふ。三百年の惰勢、絶對專制は妥協の餘地が無かつた。見よ皇帝の敎養が餘りに等閑視せられたではないか。大露皇帝らしくありたい傳統が帝を極端に頑迷にした。宿命信仰が帝をして豫言者に聽從せしめた。山師の跋扈、暗黑勢力の乘ずる處となつた。帝の治世に**ウヰツテ**、**ストリピン**の如き賢宰相が居つた。絶對君主制を信じ、率直な愛國者、忠

義者であつた。頽勢の挽回危險の脫出も望みなしとせぬ。然るに帝は專制の權力を殺ぐ者として賢臣を視た。時勢を視る鋭き建策を顧るとはしなかつた。君臣相照する處が無かつた。

第二議會は公憤的に、社會黨、勞働黨、左極派の聯合軍を進めた。政府に取つては勿論革命的の勢力である。當然の解散……立憲違反の繰返に終つた。選擧法を改正して、政府に有利にした後、一九〇八年秋第三議會を召集した。**ストリピン**宰相となり、中央集權、國家主義で、警察の利用所有る機會を捉らへて皇帝へ忠誠思想の喚起をやつた。官僚の支持者を見出さんとして、西歐の小地主を模範として、露國に小地主を造り、之れを官僚の地盤とする、政治的動機から、**ミール**制解體の土地政策を實施したが、土地無しの無產階級者の增加を見、農民の不安を招いた外、全く失敗に終つた。

中央政府の頑迷に反し、地方自治體は新文化の施設に鋭意した。醫藥の普及、

教育の普及、組合運動、消費、信用、生產等である。農民の教育は、中央政府の欲せざるものであつた。乍然、夏期講習會、夜間學校、圖書館を以て進んだ。種子の普及、農事改良試驗場の新設、技師顧問を措いた。倉庫、銀行を設て農民の便を計つた。組合制度は、**アルテリ**と稱して、古い傳統から露國に在つた。更に十九世紀後半より、消費組合が旺になつて、一九一四年には其數二萬に及んだ。此發達も政府の歡迎せぬ處で、組合聯合會の設立許可を得るに六ヶ年を費した。市場の開放、農具の買入、**グレンエレベーター**、倉庫の新設等着々實績を擧げて來た。此教育と組合制度の發達は、農民に影響する處が多かつた。農業經濟上農民の思想を新にした。露國の唯に廣い、離隔された農民に與えた文化的結果は蓋し評價し得ないものであらう。

農民の自覺は土地問題を深刻化した。貴族の領有が、耕地喝望の因であり、之れが責任は政府にあり、現存統治機關は農民に不幸を與ふるものであり、幸福者

の手より耕地を奪取せざる可からずとした。

勞働者は、勞働問題として政治上に、個人權利の主張を明確にした。之れが階級意識に變つて往つた。

ストリピンが、**キエフ**の劇場に暗殺されて後は、廟堂に立つ者は、群小鼠輩のみ、皇帝及皇后に側近する、不可思議なる取り持ち、山師、破落戸、法螺吹きが、宮廷に歡迎せられて、國家政策も、官僚政府の決定も、此れ等の支配下に移つた。果然歐州大戰が勃發して其眞相を暴露した。官僚の弱點、腐敗が暴露した。此秋政治的及個人的權利の要求は積年の勢ひ、遂に大河の決する樣なものとなつて、新興輿論の力、新興民衆的勢力となり、官僚と**デモクラシイ**の爭ひは不可避となつた。

大戰

世界大戰に臨んだ露國は、日露戰に臨んだと同じ欲望を以て、乘り出して甘く

行けば、**ダーダネルス**、**ボスホラス**の海峽を收めて、君府を露有とし、以て宿昔の志を果たし得るを期した。經濟上の後退と、正教による忠誠とが、此國の勝目で、復雜美妙な經濟組織の上に立つ他國に優ると、勝手に斷じた。對內問題が、此純農業國に極端な變化を來たすと思はなかつた。誤つた外交政策、亂暴な軍國主義、之れに伴ふ危險は當然だが、凡てを樂觀した。焉ぞ知らん、國民の一致が缺けて居る。官僚の露國と、智識階級及國民の露國の二つが明かに見える。永い戰爭に必要な擧國一致の國民的忍耐が期待出來ぬ狀態にある。

工業原料の三七%、機械類の五七%を輸入に仰いだ國だ。此國の國民經濟は、外國貿易に殊に穀產の輸出に負ふ事多大であつた。大戰勃發と共に、自然封鎖狀態に入つたが、**アルハンゲル**、**モルマンス**等の交通開發の時機を失した爲めに開戰二年半後輸出は九分の一に落ち、輸入は軍需品輸入に努めたに拘らず、五分の四に落ちた。隨て必然的の爲替の暴落は言ふ迄もない。

戰費　一九一五年に百億留布、翌年百二十八億七千留布其翌年か百四十三億六千萬留布に達した。百四十三億六千萬留布を內國債で補ひ、國際金融協定が出來て、五十五億留布を英國から、三十四億五千法克を佛國から、二億八千二百萬弗を米國から、二億二千五百萬圓を日本から借入れた。紙幣の發行は限度の四倍に上つた。經常歲入の不足が、七億五千萬留布に上り、更らに酒稅の廢止による不足七億萬留布、之れに對して所得稅、消費稅を課したが、結局貿易減から來た不足は如何とも出來ず、戰事費を以て經常費を補填したと言ふ。斯かる財政狀態を以て、戰爭に臨んだ國家は史上に嘗て無いと言ふ。

商工業　原料の不足と、燃料の不足の二問題に當面した。棉の供給は五割を輸入に仰いだ。之れを得るに困難した。一九一五年に石炭の供給は、戰前の四割に減じた。國有鐵道は四萬三千四百**ベルスト**、汽鑵車一萬四千五百五十二臺を有したが、西部戰線に貨車を集中した結果、一九一六年には解放貨車十五萬車、

閉鎖驛四十五に達した。自然商業の停止、生活費の暴騰となつた。工業は戰時品に集中して、農民に向けられる製品が無くなつた。地方廳が、勝手な規則を有して統一、融通は利かず、組織上の缺陷を痛感せしめて、混亂、亡狀其餘は推して知るべしだ。

開戰と共に七百五十萬の壯丁が召集された。翌年に千百萬人に上つた。一七年には千四百萬人となつた。其丈農村に影響した。鐵道の停頓のために、北部及中部では食糧恐惶を來たした。貧農の多い地方は生活に窮した。紙幣暴落で穀產不賣を招致した。農具の不足、家蓄の不足其他推して知る可しだ。

一九一五年に、賃銀は二割上つたが、生活必需品は五割も上つた。開戰の翌年に勞働者は度々盟休をやつて補給を求めた。月給生活者の苦痛は增す許りであつた。

小國民問題は、凡の期待が裏切られたために、形を變へて分離獨立傾向を呈し

て來た。

一九一五年九月三日の議會解散は、國民の後援支持を必要とせぬ官僚政府の態度であるとして、穩健者すら假令、獨逸が露國を支配しても、今の政府よりは優るものであらうと嘆聲を發した。東部**プロシア**の敗戰、**ガリシア**の敗戰は軍務大臣の無能を疑はしめた。

皇帝孤立　**キチナー**元帥に關する皇后の反逆及皇后の單獨媾和の主張や、**ラスプーチン**を主役とせる、政治謀反の風說は、出征軍の最高幹部より、兵卒に到るまで傳はつた。皇后の勢力は一般行政大臣の任命より海陸軍將官の任命に迄及んだ。共蔭には怪僧**ラスプーチン**が居り、怪僧と獨探機關と密接な關係が有つた事も事實だ。宮廷革命の必要、皇后捕縛が密議せられた。一九一六年十二月十七日怪僧の暗殺されるや、皇室の威信全く地に墜ちた。軍紀不振、此年逃亡兵卒百萬を算した。之れには獨逸情報部が宮廷內に在るとの流傳が與かつて

力があつた。

露國の內閣には、總理大臣無く、閣員中皇帝の親任あるもの內閣議長たるのみ、議長と閣員との間に何等の優越的關係も無い。閣員の更迭も議長不關、又抱負、經倫興望によるに非ずして、一に皇帝の信任によつた。皇帝卽總理大臣、各大臣は皇帝の大臣、獨裁帝權であつた。故に開戰以來、閣員の更迭頻々年をまたず、月を閱せず、走馬燈其儘であつた。凡て皇后の指圖であり、悉く怪僧の申言に出たと言ふ。議會の停會、政變も亦然りだ。

皇帝も、皇后も、官僚も猶目覺めなかつた。政界混沌政策矛盾、軍隊內にも、皇室に對し、反感を抱くものが出來た。革命氣分は全露に漲つた。英國も、佛國も輿望內閣を作つて擧國一致でやつて居る。露國にも責任內閣を、輿望內閣をと擧國之を翹望したが、依然官僚の豫備役を引出して、皇帝の內閣を作つて、何處迄も時流に逆行した。

下層階級は、三年間の戰爭に困憊甚敷、農村は千四百萬の壯丁を取られて居る。都會は生活難、食糧調達難に泣き、政客間には、和戰の論議が高くなつた。實に國步艱難の秋である。

革命氣分は刻々に逼つた。此勢に默火して、一揉みに消さんとする古い警察手段が、政府者の有する唯一の鎭壓手段であつたが、之は時機を逸すれば駄目だ。都市は食糧の供給が日增に困難となつた。飢えたるものの眼中には、政府、警察、皇帝、戰爭の何物も無い。**パン**を得ざる間は、凡て此等を呪つて已まなんだ。革命家は秘策を廻らして、政府者の機先を制した。同盟罷業頻々として起つた。

一九一七年二月二十五日内閣議長は、責任内閣樹立を帝に献議したが、無條件拒絕に接した。大勢は此時に決したのである。

二月二十七日の國民議會開會は無事にすんだが、三月に入り**パン**の供給甚敷澁滯した。八日は勞働者の示威運動、九十日は學生、智識階級も加つて、形勢重大

化した。

下院議長**ロヂヤンコ**は、首相**ゴリツイン**公に迫つて、食糧補給事務を首都の市會に一任して、人心緩和を試みたが、時既に遲く、人氣は膨湃として革命に趨き、官私大工場の勞働者は罷業に參加した。最早如何ともし難し、大事既に去つた。

ニコラス帝は大本營で帝都騷亂を知つた。其火元を國民議會に在りと速斷して、三月十一日より停會を命じた。之れ**ロマノフ**家の最後を決せしものであつた。此停會無かりせば議會は革命側に走らなかつた。**ロヂヤンコ**は、**ケレンスキー**と握手しなかつたであらう。

ロヂヤンコは、更に十、十一日皇帝に宛てて、輿望ある人を擧げて新政府を託する事を進言したが、帝聽入れ給はず。國民議會は、俄然反政府となつた。示威運動は一躍革命軍となり、行列騷ぎが、決定的打壞者となつて、三百年の獨裁專制は、一朝にして亡び、官僚の殁落となつた。其歸依者、賞讃者、援助者の凡てを捨てた。

軍隊は反旗を飜し、護衛兵すら矛を倒にした。熟柿の地に墜つるが如きであつた。

勞兵會 二月二十七日議場に偶然落ち合つた、社會革命黨の代議士**チヘーゼ**、**ケレンスキー**、**スコペレーフ**が院外團と共に、革命運動の中心機關として、勞兵會を組織した。寧ろ舊制度に對する、高壓手段を取る爲めの、計畫されたる、軍事的組織であつた。勞兵間に檄文を配布して同夜成立を見た。三月九日には、勞働者八百人、兵卒二千人の加盟者が有つたと言ふ。之れが共和政體を主張し、時代の指導者、監督者となり、再轉して**ボルセビキ**革命の中堅となつた。

十二日事局收集のため、國民議會に、臨時執行委員會を組織して、**ロヂヤンコ**氏議長となつた。內閣議長辭職。

十三日 全市全く無秩序、

十四日 皇后離宮にありて、**ロ**氏と交涉を希望せられしが、**ロ**氏不應。皇族低頭して哀を請ひ、近衞兵が革命に忠實を誓ふと言ふ幕に進んだ。

十五日 執行委員會と勞兵會との間に臨時政府組織の議成立して、新政府樹立。**リヴーフ**公宰相兼內相となる。日、英、佛、伊、各國承認。

退位 皇帝は大本營に在つて、皇后(夏の離宮)の招電に接し、**イワノフ**將軍を露都鎭壓に赴かしめ、帝自ら**マギリヨーフ**を發して還幸の途に就かれた。新政府の使者**グチコフ**は**プスコフ**にて帝に謁して、露都騷擾の顚末を奏し、新政府の使命を述べて帝の處決を促した。帝今更驚嘆措く處を知らず。退位の詔勅に自署せられた。若し二月二十五日責任內閣を許容し給ふに於ては、恐らく今日の勢を作る事なかりしならんとは、**グチコフ**が帝に奉つた最後の語であつた。

十六日退位發表

帝は軍隊と訣別すべく、**プスコフ**より、大本營所在地**マギリヨフ**に引返し、**キエフ**より來合はせた皇太后に生列し、二十二日臨時政府より皇帝皇后の自由剝奪命令に接して、夏宮に還り幽閉の身となられ給ふた。後に**ケレンスキー**の命に

依て、西伯利亞の**トボルスク**に遷された。

臨時政府

露國官僚の歿落は、歐州に於ても、米大陸に於ても、何等の同情を招かなかつた。四月對獨宣戰に關し、上院に送つた、**ウイルソン**教書は、露國の舊政府を暴政、腐敗と言ひ、新自由政府の新出は、米の對戰參加の躊躇を除去したと言つた。却つて一種の安心が生じた。單獨媾和の憂が去つたのであつた。

芽生の間に剪除すべきであつた首都の一撥は、全露國の革命となつたが、革命運動は想像する樣に、準備されたもので無かつた。革命を終局の手段と信じた者すら、斯く疾風迅來するものと豫期しなかつた。革命は目的で無く、最後の手段であるとした。革命の代りに、平和手段でなければならぬとした。露國の平安と一致する方法、**ロマノフ**家の威嚴、祖國に對する責任と一致する決定を、皇帝

に請願したのは昨の事である。皇帝中心官僚は、平和妥協の途に進まずして、却て逆行した。議會に於ける强調も、過激な言論も、畢竟は君主政體の下に於ける、政治の變更に過ぎなかつたでは無いか。

革命は官僚が、警察を使嗾して、計畫せしめたとも謂ひ、獨逸軍部の計畫であつたとも言ふが、保守主義の**グチコフ**の說明に依れば、革命は熟柿の墜ちた如く、歷史的の事實、自然的大勢の結果であつて、其永續性は保障せらる可きであつた。政府者の盲目頑迷が之れを不可避のものとした。更らに大戰が、大勢を一層强めた。農民の數百萬を徵發して、都會に接觸せしめたが故に、一揆が直ちに革命と變つたと言ふ。蓋し至言であらう。

流血の鬪爭を要しなかつたのは官僚及其機關の腐敗に因る。

國民を驅つて、革命に赴かしめたのは、數世紀間の長眠より醒めて、刺擊と希望に動き始めたに因る。或者はドン底生活の直ぐなる改善、或る者は高き理想の

直ぐなる實現、或る者は確乎不動の宗教的信念に於て、或者は社會的、政治的過去の屈辱壓迫を回顧して、直ちに其要求の實現を、更らに多數は、熱狂の餘り、潮流に押流されつつ、漠然と目的と希望とを意識したのであらう。

農民は自然、土地獲得の機會を狙つた。兵卒は絕望を感じた。虐使を感じた。過去を顧みると、氣まぐれな、放恣な意思に無意義な服從の、永い物語りであつた。戰爭の疲勞に飽いた。

秩序の尊重、義務の意識、此れは長い間の政治的經驗から得るものである。露國には此政治的經驗が無かつた。一國危急存亡の岐路に於て革命を見たのも怪しむに足らぬ。權利義務關係を、正しき道の上に立てて、之れを强めて、支持して行かねばならぬ、重要な過程を持たない國交通不便、散住々民が利害を爭ふ國に革命が起つた。

召募兵千四百萬の大部分が後方に……大都市に滯留した。此軍人大衆の行

動が革命の致命的決定要素とも見られる。村落を離れた徵募兵の爲す事もなき、永い間の都市集中が何を生むであらう。既に士氣の振興を缺いた。勝手氣儘の振舞。新思想の感染、故鄕を去つた者の群集心理……巢を出た鳥の樣に……日夜腦裡に影ずるものは、村落であり家族であり、耕地である。農民は最後の一物迄も徵發されたが、地主の倉には富裕な藏品がある。何の戰爭、何の爲かも知らない。唯だ外國へ行て戰ふのみ。瞑目すると、殉教者の最後の日、戰爭地獄が有り有りと見える。此の現狀が、煽動家、宣傳家の乘すべきであつた。燃ゆるに良き材料であつた。首都に於て殊に然りであつた。革命の達成は、一時的にも軍隊の士氣を振作した。規律を嚴にした。憶病者を勇者とした。軍規は大に改まつたが、これも暫定的であつた。間も無く煽動家の標語に動かされて、分裂、解崩、潰滅の一路に趨いた。

壓倒的優越な地位を占める農民が、此大問題から除外されて、革命は工業地に

起つた。都市無產者が働悸的勢力となつて革命背後に控え、勞働者、水兵、兵士が立役を演じた。地方農村は靜かに成行を見た。

勞兵會は**チヘーゼ**に於て、理想的指導者を得た。三月二十七日全世界の人々に與ふる檄を各國の勞働階級者に送つた。要は**ジンメルワルド**主義と國家的に必要な國防戰との折衷であつたが、之れが指導的政策となつた。戰線では之れを進むな、また退く勿れと解したと言ふ。勞兵會の網は全國及戰線に張られて、全露會議となつて四百九十七人が集まつた。平和欲求と國防の必要との中間に妥協した決議をした。

勞兵會は其代表として**ケレンスキー**を臨時政府に送つたが、臨時政府に對する其態度は政府の全行動に對して民主化を要求した、而かも責任を負ふもので無かつた。徒らに政府反對の僻見を大衆に與えたに過ぎなかつた。

勞兵會は無暗矢鱈に政府を牽制して勞働者以外の利害を顧慮せずに勞働立

法を成立せしめた。八時間制、最低賃銀、組合の自由、勞働保險、失業者救濟等を大戰參加の最中にやつてのけた。野心、慾望の全部を遂げた。換言すれば政府は工業勞働小數者の要求を容れたが、農民大衆に對しては反對であつた。政府は農民大衆の、最も急務とする土地問題を、土地委員に委ねて、耕地分配法も、未墾地處理も凡て立憲會議の決定にまつことにして、此問題の解決を遲滯せしめた。勞と農とに對して大矛盾であつた。其處で穩健者大衆は、戰爭問題、土地問題解決の唯一の利害指導者として、勞兵會を見るに到つた。勞兵會は信認と輿望を負ふに到つて益々重大位置を占めた。此勢ひを見て、**ボルセビキ**政派は漸次勞兵會內に勢力を扶植して、主要政策及進路決定を左右した。其領袖は全破壞的勃發に到達せしめんと秘策を廻らした。

臨時政府の成立は明かに政權の受授に依り、法的根據を備えたものであるが、其閣員は帝王黨色彩あるものは勞兵會の排斥する處となつたのも時の勢であ

る。然し前政府の全責任を繼承し、同盟條約遵守戰爭必勝を目的とした點に於て輿望內閣であつた。政治問題の處理に深き經驗を有する唯一の政府であつた。希望と信賴を博したのも當然である。けれども新秩序、新政治の創出が一方にあつて戰爭遂行のために必要な施設の保存が他方に在つた。戰事決定が急を告げた戰爭の爲めに全力を傾倒せざるを得なんだ。行政、社會經濟上の極端なる再建に、全力を捧げざるを得なんだ。全力が三つ、四つあつても足らない。而かも政府の爲す事は解決の方法は、群衆心理の豫期とは遠いものである。加之勞兵會自身は全露人民代表だと云て脅迫する。農兵に撰擧權を與えた爲めに、立憲議會代表者の撰擧を全戰線に行ふ事も、又不便な農村に施行する事も、實行不可能であつた。寔に悲劇的矛盾の位置に立つた。

レエニン歸國　彼れは瑞西に在つて望鄕の念に堪えなかつたが、聯合國は何れも彼の通過を肯かない、四月獨將**ルーデンドルフ**が所謂密封列車で獨逸を通

過せしめて瑞典へ、芬蘭を經由して首都に入らしめた。彼れに幾多の秘策と資金とを授けた。此好將軍は後に復僻を策して敗れ、今や平議員として陣笠に過ぎないが、狂兒**レエニン**は、遂に教祖的尊敬の的となつた。**レエニン**歸國するや、彼れは直ちに一黨首であり、謀主であり、軍師であり、決戰家であつた。勇敢無比であつた。

外交政策和戰問題　革命直後に於ては、何が何でも決定的勝利に邁進すべしとしたが、露國の**デモクラシイ**は**ユートピア**思想に捉れて、新社會秩序から奇蹟の生れる事を期待し、黃金時代の現出を夢想し出して、正義の精神を以て國際關係を解決せんとした。新時代到來、戰爭即刻中止の翹望が一般の心理であつた。勞兵會は侵略政策の放棄を以て、平和運動の基礎とする事を三月二十七日中外に宣した。平和熱は高まつたが、政府は依然戰爭繼續論で世評に頓着しなかつた。單獨講和は非、さりとて決定勝利の目算もないと言ふのが立憲民主黨の立

場で、之れに對立する勞兵會は、無償非併合、自由平等を平和條件とし、之れを以て國際平和運動の出發點とした。戰爭敢て辭せず、乍然防禦的たるのみ、侵略的たるを非とした。然るに政府の立場は聯合國に對する義務遂行……飽迄決戰の覺悟を要した。寔に進退兩難に陷つた。偶外相**ミユリコフ**が戰爭の目的、聯合國の根本目的として、土耳古、墺匈國の併合を聲明するや、政府と勞兵會との間に完全なる分裂を生じ、五月三日に到つて勞働黨は、非併合講和を主張し、政府黨は同盟條約確守、決定勝利を叫び、互に示威運動を以て全市混亂となつた。好機を捉へて**レエニン**一派は、**ミユリコフ**外相排斥、政府倒壞を叫び出した。之れが所謂五月騷亂で革命後二ヶ月目の所謂定期的危機の第一である。

相反するものの分離

臨時政府の危機は、和戰問題より相反勢力の、遂に分離する岐路に立つに到つた事である。一は强固なる政府、軍事專制に傾き勞兵會一掃、**クーデター**の密謀……復辟運動……强固なる政府の樹立、目論見等とし

て擡頭して來た。他は一階級、無產者の獨裁の主張で、**ボルセビキ**派は勢力を集中して、四月末には黨員八萬を得た。無政府主義者の積極援助に據つて、戰線の兵士間に、立憲議會を俟たず、耕地の即時分配を宣傳した。現政府の廢止、勞働者の工場監理、賃銀引上、排他的階級軍事組織……赤衞軍設立の唱導。秩序の紊亂、無政府主義の傳播を敢行した。亂痲の世となつた。

非社會主義者の手に政府を委するか、之れ堪え得る處にあらず。勞兵會が政局に立つか、之れ亦爲し得る處にあらず。聯合內閣を作つて、社會主義者を列せしめるの外は無かつた。斯くして聯立內閣成立。資力階級は同盟義務を守つて決勝に鋭意し、勞働階級は勞力擁護を叫んで社會主義化を主張す。兩者對峙して危機を孕む。此時**ドネツ**及**ドン**河の氾濫、中部地方の大吹雪。天災と共に、地方は行政、警察機關の全廢に伴つて、强盜橫行、眞に無政府狀態、不安を呈した。而して國民議會は政治的存在の價値を全く失ひ、天下兵馬の權、全く勞兵會の手

に歸した。天下を取らんとするものは須らく勞兵會を頤使すべきだ。今や勞兵會に在つて機を窺ふものはレエニンである。彼れは機を視るに敏なる者だ。政局は左へ左へと展轉して、遂に極端社會主義者の掌中に入らんとする。**ウクライナ**自治問題に關して閣員動搖するや、**トロツキー**及**ルナチヤースキー**は勞兵會に現れて、攻勢反對の大演說を試みた。七月騷亂の因を作つた。果然翌日武裝示威動と化し、其翌日は市街戰となつた。死傷一千人。十八日政府は勞兵會と妥協して、纔かに危期を脫した。

七月二十日**ケレンスキー**第一次內閣成立した。純乎たる勞兵會の內閣である。攻勢轉換と、內亂鎭撫が重要政策であるが、勞兵會の中、過劇派は依然攻勢に反對した。此月末、東部**ガリシア**に於て**タルノポール**正面突破で、獨軍の逆襲、大勝、開戰以來力を盡したる陣地の此の餘儀なき退却は、露國に大失望のみならず、絕望を與えた。騷亂に亟ぐに大敗。延いて政府內部に內訌を生じ、動搖を來し

た。露國に取つては定期的危機である。八月三日國民議會、勞兵會、五大政黨が夜を徹して凝議すれども纏まらず、遂に改造を**ケレンスキー**に一任した。**ケ**第二次內閣成立。彼は政府を階級及黨派的政爭の上に超越せしめ、愛國心を喚起して、時局に處すべしとして、全露**モスクワ**會議を召集したが、破綻百出、收集する事が出來なかつた。九月一日獨軍**リガ**を攻む。二ヶ年の築壘も奪取するに何の苦もなく、**ドウヰナ**の河も渡るに易かつた。**リガ**の敗報は更らに人心を不安に陷れた。八日に到つて、軍司令**コルニロフ**將軍、突如內閣明け渡を要求し來る。政府狼狽措く處を知らず。反軍內部の內訌にて局を閉ぢたるも、此事件は**ケ**氏と將軍と豫め約する處あつた、非常手段なりしと言ふ。事未然に過劇派の探知する處となり、遂に將軍を反將たらしめた。**ケ**氏は有力なる味方の一人を失ひ、又自ら墓穴を堀つたものである。此新事態が因となり、反革命に對する正當防衞として、勞働者に武器を渡して革命守護の赤衞軍が出來た。勞兵會は最早や

レエニンの固く把握する處となつた。彼れは背後に獨逸の金力を有し、露國人の、政府に對する信認を阻害する大任を有した。所有毒牙と毒舌とを以つて秩序の紊亂を企てた。凡てが上下顚倒した、兵士と士官、政務官と司令官、勞働者と資本家、大露人と外來人、凡て上のものが下になり、下のものが上になつた。更にまた將軍の上の辯護士、政府の上の勞兵會、各宮殿に於ける社會黨員、王族の幽閉、士官は殺され、名士は投獄せらる。眞に滅茶苦茶である。內閣動搖し始めた。權威ある、實力ある內閣に非ずんば、此時局に處する事が出來ぬ、**ケ**氏三度び改造の任にあたり、九月七日**ケ**氏第三次內閣成立。**ケ**氏三十七歲、俊は俊なりと雖も、機略の時流を拔くものあるも、**コルニロフ**將軍策謀事件の暴露以來、信望全く地に墜ち、復た前日の聲威無し。**ロマノフ**王朝は親獨に累せられて倒れた。**ケ**氏は親米英佛を以つて、聯合國の支持の下に、革命風雲兒たらんとした。然るに今や露國內には、此れ等聯合國が援兵、援助、支持を爲さざるを理由に、他人の褌で相

撲を取る者として、又赤手空拳獨逸に止めを刺さんとするものとして、英佛反感熱が昂まつて、**ケ**氏の政策を覆すに到つた。況んや信望の失墜あり、此處に露骨なる親獨の過劇派の乘する機會が到來した。秩序紊亂、無政府狀態、到底權威あり、實力ある政府の建設は之を**ケ**氏に望まれ無くなつて、十月廿日代行議會席に於て、**トロツキー**は現政府を攻擊して、一派を率ひて退場した。政府に對する過激派の宣戰となつた。**ケ**氏勢力は、此場合風前の燈よりも弱く、有るか無きかなり。此處迄大勢の押寄せた上は、最早策の施し樣は無きなり。遂に彼れ一朝の風雲兒たるに過ぎなかつた。由來露國の政治は服從を要締として、知らしめず、賴らしむべしであつた。**ロジヤンコ**、**ミユリコフ**の輩、歐米**ハイカラ**政治を眞似・て遂に敗れた。**ケ**氏悟らざる可からざるに悟らず、常に一六勝負をやつて敗けた。**コルニロフ**、**レエニン**を自家藥籠中に入る可きであつた。此等を頭撫せずして競爭者とした。**レエニン**は常に安協を排して、此機會到來する迄耐忍した。

十一月四日勞兵會は軍事革命委員會を創設して反革命に備えた。先づ軍司令部を自家監理の下に移さんとして、政府對勞兵會の抗争を造つた。五日巧に駐屯軍を籠絡し、六日反革命鎭壓を名として兵を動かすや七日政府倒壞。四日間にして、露都の天下は過劇派の有に歸した。仍ち國民執政內閣を組織してレ・エニン議長に就き、**トロツキイ**、**ルイコフ**、**ルナチヤースキー**、**スターリン**、凡て閣員に列した。勞兵會を政府の地盤として、又發表機關とした。作戰の巧妙、手配の棉密、出動の神速、驚嘆』の外は無い。過去七ヶ月間內閣は幾度か危機を告げ、累卵の危きに居つた。走馬燈の如く局面を換えたが、畢竟口舌の支配下に在つた。今全く力の下に壓し代けられた。力の上に過劇派政府が確立したのである。

十月革命

貯藏穀物は僅かに軍隊需要の二分の一を有するのみとなつた。無論市場在

荷は、市民の一ヶ月分を充すに足るのみであつた。

食糧政策の至難は今に始まつた事で無い。舊政府はこれで倒れた。臨時政府は穀物專賣法を設けた。聯立內閣は特別食糧委員を設けた。けれども目的の達成は出來なかつた。軍隊へは送らねばならぬ。市民は飢ゆる。解決は絕望となつた。

革命騷ぎは直ちに士氣に影響した。軍隊の道德觀念に大變化が來た。服從、嚴肅なる形式主義の上に立つ規律が排斥された。最早や露國の軍隊が有した舊勢力は無くなつた。組織の解體、軍律の馳廢に當面し、有効なる對策を有する指導者が出ぬ。上長士官の權能を復舊する望は絕えた。廣大な戰線を張り、千四百萬の軍隊を擁する露國の陸軍は、獨軍の精鋭、進歩せる科學の應用新裝の武器に面して幼稚な自國の工業に倚賴する外聯合國の支持が無い。此れでは愛國的英雄的心理に何が反應するであらう。輿論から全く隔離された軍隊は、流

れて止まぬ政治の潮流に巻き込まれた。後方駐屯の兵先づ鬪志を失つて漸次戰線に及ぼした。一般的疲勞、生活の慘、士官の不能共に既に革命前より顯著であつた。殊に首都駐屯の兵は、革命英雄を以て自ら任じ、勳功を誇つた。寔に滑稽な自惚だが勢である。勞働者は、全露の勞働者を代表した積りで勝手な發言をする、過信笑ふ可きだが勢である。此の勢ひを利用したのが、**ボルセビキ**一派である。此勢を誘導し、暴動化せしむるのが彼れ等の目的であつた。輿論を支配し、一世を指導する偉人を缺いたが故に群小輩の乘ずる隙を造つたのである。

ウクライナ問題を點火機として過激派は勞働者を武裝して暴動化した。間もなく鎭壓したけれども、此れが教えた處は、**ボルセビキ**が聲援を贏ち得るの確認を得た事であり、暴動の誘導方法を知つた事であつた、利用の方法であつた。換言すれば政權を暴力を以て奪取するは、難事に非ずして、短時日の問題たる事が判つた。過劇派が此れを發見すると同時に、反動派も暴動に依つて目的を達

成すべしと悟つた。

時局は**ケレンスキー**を首班とする內閣に移つて、到底年內に立憲議會招集の不能に代ゆるに、全國的支持を恃む可く、**モスコウ**全露會議を開いた。時に過激派は之を機會に、多くの標語を送つて暴動化を策した。

獨軍は、米軍の西部戰線到着前に、東部戰線の大砲を、該方面に轉送するの絕對必要に逼られた。乃ち對露戰線に於ける、獨露の妥協交歡を始めた。困るのは聯合軍だ。獨軍牽制を決行せずんば、經濟的支持を拒絕す可しと威嚇した。露國は此頹廢の軍を以て、悲劇的義務を充たす爲に、獨軍を後退せしめ、喰止め、決定勝利を獨軍に歸せしめぬ樣に、米軍の到着迄持耐ゆる大任に當らんとする。**ケレンスキー**は陸相となつた。責任ある位置に据られ所有輿論の支持を受けた。

此時に**コルニロフ**將軍の反亂が大勢を決定した。將軍は總軍司令の重責に就た。此秋に不可避の勢ひは積勢力となつた。時局の收集は三つの方法の一

にあつた。曰く軍事獨裁制度、曰く過激派獨裁制度、曰く聯立政府の統治。誰れか時代を達識する。軍事獨裁を以て平定の功を收めんとする右極派は、廣き國民の後援を有せず、穩健分子に訴ふるのみである。國民は帝政時代の壓迫政策の復活を想像するは當然從て農民も、小民族も、兵士も、大憂と危惧とを抱いた。此政治陰謀は**コルニロフ**將軍を擔ぎ上げた。若し夫れ眞に富者階級、自由主義者が死力を盡して、中央權力樹立に熱中したらんには、功を收めたるや必せり矣。之れに反して彼れ等は憶病者であつた。徒らなる反抗となるに過ぎなかつた。果せる哉極端分子が增加して、隙を求めて浸潤した。國を擧げて無秩序化せんとした。

コ將軍の亂自體は直ちに鎭定したが、其波及は大きかつた。鐵道、電信、郵便の紊亂は勿論二月以來恢復した秩序は再び破壞された。士官上長の權能、威信を泥土に委せしめた。同時に過劇派のあらゆる宣傳、批難、攻擊に口實を與えた。

公然政府顚覆を主唱した。政府者は協約義務の大を慮つて、單獨講和は爲す可からずとした。さりとて平和の至急なる望もなし。政府は迷路に立つて、出口を見出すことが出來なかつた。國民の不安は增す許りであつた。過激派は斷々乎として平和の先驅者として乘り出した。

「直ちに平和を要求す。凡ての土地は働く者に渡されよう。貧者を救へ。家無き者を富者の家に入れよ。弱つた子供に乳を與へよ。銀行と工場とを勞働者の監理に渡せ。全世界の勞働者の勝利」

之れが過激派首領**レエニン**が爲した約束であつた。**トロツキー**は十月九日勞兵會で、政權護得の準備に全力を擧げよと宣した。十月廿日**クーデター**決行の爲に、特別軍事革命委員を設けた。十月二十四日夜暴動となつて幕を開けた。

「臨時政府は倒壞した。統治權力は勞農會の首都會議の掌中に歸した」

と宣言した、何の苦もなく政府機關を收めた。二十六日新政府樹立。**レエニン**

首班となつた。

過激派の政權把握

革命の暴は、不屈にして而かも不妥協の動悖に動く、ワィワィ烏合勢のみが、遂に大事の運命を決定する。此盲目群集の破壞的勢力を制限し、支配して、一の目標に向はしむる利導技術が、時の政派、政治家によつて工夫される。露國の革命ではレエニン實に優秀なる技師長であつた。

公的生活に於ける經驗が乏しいは勿論、國家組織の上より言ふと、捨てられたも同然の智識階級及無產階級の破壞的傾向の指導、誘導が秘密宣傳印刷物で成効したのである。世界大戰の副產物として生れた。新來思潮のために、結果を顧慮せず邁進したのが**レエニン**である。機先を制するのが彼れ獨特の戰略であつた。一般が平和喝望をした。故に平和の約束をした。農民が土地喝望をした。故に即刻の土地分配を約束した。小民族が騷いだ。故に自治分離を敎えた。臨時政府の立憲議會召集遲滯を責めた(一九一八年一月消滅を宣した)如きは、反對政派に對する奇襲であつた。此無遠慮な約束を以て、農民、兵士、勞働者を先づ自家藥籠中のものとした。然る上は、無節制、無法律、暴戾の限りを盡くした。以て組織的破壞をやつた。盲目群集は容易に、必然的に共支配下に勝手に左右された。無條件に服從を强ふる秘訣は、過激派の所有するものであつた。

レエニンの新說に違へば、國家は支配階級の、他階級に對する機關である。政府は一部の後援者を有すれば可。不滿者は之れを壓伏すべし。國民の多數は、受働的、盲目者流で、單に服從に終るものだ。多數國民に對する小數者の壓迫之れが論理的歸結の具體化として、共產黨領袖政府が生れ、壓伏機關として、手段として恐怖制度を常置した。佛革命でも恐怖時代を演出した。反對するものに對する防衛であり、復讐であつたが、未だ組織として存したものでは無かつた。

露國では常置組織であつて、共産政府が存在する間は消滅しない運命を有する。其目的が反革命の根絶であり、共産主義政治、經濟に對する反抗の絶滅であるからである。無責任な制度、極刑機關であつた。慈悲なき制度である、不正義、不道理である。けれども共産政府の柱石は此制度である。此柱石制度が嚴存し、存續する限り、現政府は存續し得る宿命を持つ。共産政府の存する限り、此武裝の解除は望まれぬ。一九二七年の露國を見れば全國に此制度の網が張られて、洩らす所が無い。完全に効果を擧げて居る。現政府の强味、永續性は智者を待つて始めて斷すべきで無い、三歳の兒童も之れを知る。此制度の始祖は**ゼルジンスキー**、彼れは一日千餘の死刑宣告に署名して寧日が無かつたと言ふ。其名を聞いて泣く兒も泣音を止めたと言ふ。此制度は反革命組織の有能分子を多く有する都會に始まつた。現場射殺、**レエニン**の革命は實に射殺に始まつたと謂ふ可しである。恐怖主義を以て、露の國民性に歸し、蠻性に歸するものあれども、

之れ事後の説明、無理强いするものである。**レエニン**主張の獨裁政治思想の論理的歸結と具體化で無くて何であらう。

過激派は始めより謀叛人の黨派、專問的革命家煽動家の黨派である。其中央幹部は**レエニン**其人によつて指導され、統率された。黨員は盲目的服從が唯一の規律であつて、實に官僚的服從の上に立つのである。常に勞働者の名に於て主張した**レエニン**は、高壓手段を高唱した。人氣の惡い下層階級や煽動家を極力利用した。されば資金を集めるに、武裝團を送つて富豪を脅かした。强請もやつた。紙幣の贋造もやつた。黑手紙も送つたと言ふ事である。手段を撰ばぬ事が特長であつた。世に最も汚ないものが政治であるとした。此汚ない仕事に汚ない方法を辭さないとした。**レエニン**は此山賊仲間を率ゆるに、絶大の努力と不屈の頑質とを以てして、遂に成効を見たのである。彼は傑物であつた。

マルクスは工業の集中に依つて、資本主義の漸進するものと見た。之れが自

然的進化だと見た。故に近代工業制度の下にある被壓者から出て來る力、その增大する集合勢力に依つて、遂に社會主義への前進と見た。時移つて勢ひを爲し、勢ひ凝つて力となり、玆に惡が正義化するとした。故に**マルクス**に云はすれば、社會化する最後の國が露國である。露國社會化の運命は然かく遼遠であつた。**レエニン**は時を惜んだ。然り實に時を惜んだ。富者階級との妥協は、彼れの徹頭徹尾排する處、無產者の獨裁政治が唯一の彼れの進路となつた。姙婦が姙月前の流產の結果に想倒せぬと同樣、彼れは結果を考える猶豫を持たなかつた。勞働者の覺醒などは、必ずしも問ふ處で無かつた。彼は國家權力を承認した。故に權力を獲るの途に邁進した。機會の到來に面して躊躇するもので無かつた。世界大戰は露國の敗戰に終る事、日露役の如くなる可く、畢竟彼れの勝利を意味するのだ。此處を彼れは革命の發程として、依て以て西歐に波及、光被せしめんとした。**マルクス**の所謂資本主義の爛熟期に在る西歐の勞働階級は、

貧富の差と云はんよりも、寧ろ位置の差であると見た。此處に無產者獨裁の世が現出するとは彼れに想えなかつた。之れに反して、亞細亞の各國には人種的、民族的不安がある。此處に革命の峰火を擧げ得る素地があるとした。**マルクス**主義の實現を、先づ露の大平原に於てし、之れを西漸せしめんとした。故に富者革命を以て資本主義の婢僕として排したと同時に大戰の機會、露國に苦難の數々を重課することに依つて、彼れが機會を造り出すものとした。專問的革命家として全生涯を、革命組織、秘密宣傳に捧げた。意思の力は强く、努力は無限であつた。凡てを正義化せねば已まぬ。惡を善と化した。道德的資格を以て彼れを律するは難きも、彼れは親分的素質を充分に持つて居た。好戰家、政略家であつた。其特長は機に應じ時に臨んでの術に巧妙を極め、凡ての場合に指導的地位を失はなかつたことである。眞に策動家であつた。特に群雀中の一鶴、一頭地を拔くものであり、將に將たる器であつた共產黨の會合に於て彼れの意思

は絕對であり、彼れの言は法律であつた。側近者に彼れの意思の儘なる實行者を見出し、主義の人を獲た。此れ等忠實なる使徒の絕對服從の上に、優越的獨裁者となつて遂に近代的**マホメット**となつた。宗教と事業とを混和した、一制度を造り上げたのであつた。彼れは畢竟**ビスマーク**では無かつた。

朝に立つ過激派

過激派政府は、十一月八日土地國有令を發して、資本階級中の有力者たる地主から、其所有地を卷き上げた、一夜明くれば無一物の地主とした。其次ぎに工場の監理を、工場勞働者に委任して、生産の監督をせしめた。株主も工場主も技師もあつたものにあらずだ。二十七日に銀行の國有令、私立銀行の國有銀行合併、金貨、金塊の殁收を布令した。資本家征伐は斯く短兵急であつた。富豪の發狂するものが多かつた。十二月一日一切の國債廢棄。外國債無條件廢棄をやつ

た。都市不動産所有權廢止令で家主を征伐した。銀行家を逮捕した。資産階級税を課し、富豪を逮捕して納税保證とした。以上の經過を實際的に云ふと、農民は土地は吾等のものだと頑張つた、勞働者は工場は吾等のものだと主張した、店子は家屋は吾等のものだと云ひ張つた。御大將**レエニン**の約束實行をせまつた。手の下し樣がない。凡てを國有論で排除した。彼等は好餌に釣られて此處まで來た宿命をもつ。今後も引張られて行くの外は無かつた。**レエニン**は豪語すらく過激派の本領は、多年勞働者から絞り取つた膏血、即資産を、今取り返すのであると。社會革命は、遂に極端に成り行くに委かせたのであつた。其混雜と悲哀と餘波とは想像の外であつたと思ふ。

過激派は遂に憲法議會を蹂躙し去つた。永い露國の政治悲史は、實に憲法政治の翹望であつた。一九〇五年、彼の十月詔勅を獲て以來、國民に取つては旱天の雨であつた。殊に革命後九ヶ月間、民人の希望は一に憲法會議に繋つた。十

二月十一日は憲法を制定する所定の召集日である。政府は自派勝算無きを知つて、表面擁護を叫んで內心暴力蹂躙に決し、反政府派を逮捕して流會とせしめた。十八日再會。云ふ迄も無く、勞兵會集權主義の政府と、憲法會議集權主義の全國撰良との衝突は不可避である。駈引の第一歩は勞兵會所屬議員の、人民一般の意思を表明するものに非ずとして退場したに始まつたが、翌朝四時に到つても果てしが無く、さりとて政府は絕對多數の見込無きを以て、守衞の水兵をして、疲勞に堪へずとて閉會を命ぜしめた。雜作も無い話である。暴力の前には萬事休すである。憲法を翹望した國民の意思は、斯うして暗から暗へと葬られ去つた。

憲法會議に代る可き勞兵大會が、一月二十二日に開かれて、政府の執つたる政令の事後承認をした。既成事實の論理的審議も、自派のもの丈で、全案、滿場一致である。これで政府は國民的承認を得たとするのである。

講和問題で兵卒を釣つた。釣られる爲に兵卒は過激派政府に應じた。八ヶ月間臨時政府が、機會を狙つた講和は、否やでも應でも此政府が實現せねばならぬ。飢饉到來、食糧の供給日に不如意を告げる。掠奪、强盜、追剝の橫行、日に甚敷、此重要問題は瞬刻を爭ふ程に切迫した。實に文字通り焦眉の喫緊事となつた。十二月二日露國休戰條約委員は、**ブレストリトフスク**に到つて、十日間戰鬪行爲停止の約を結んだ。十一日再び此處に休戰交涉を開き、二十二日談判に入つた。露國側の根本條件たる、非併合、非賠償及民族自定主義に對し聯盟側の同意を得るや、成功を祝して、露都では三十日講和談判の成功祝賀會を催ほして、筒拔け騷ぎをやつた。此勢に乘じて社會主義の傳播、革命熱の煽動を、聯盟各國の勞働階級に及ぼさんとした。伯林に於ては、同盟罷業起り、獨逸は國內の敵が外敵よりも强いとの伯林發虛報が、スッカリ過激派政府當局を有頂天にせしめた。焉ぞ知らん二月四日、聯盟當局は伯林に會して、露國は最早抵抗力の無い事實上

の脱戰國だ。唯だ過激思想の及ぼす影響を憂慮すべきだ、として否應なしに獨逸の提案に屈伏すべきや否やの手詰の談判を持込んだ。委員長**トロツキ！**は脱戰宣言書を投げ付けて引上げた。彼は革命の面目を丸潰にし、過激派の主義を破潰して、全く立場を無くするに忍びず、こんな狂言を演じたものである。二月十一日より露軍は無抵抗狀態に入つて動員解散に着手すると、獨逸では歐洲を危險思想の感染より救出せねばならぬと高唱して、**ヒンデンブルグ**は十八日に攻勢行進を命じた。忽ちにして**プスコフ**、**ナルワ**線に進出露都攻略も一息の處となつた。政府は、攻進停止の哀願を奉る。條件の如何は問ふ處に非ず、決行せざる可からざるものは講和であつて三月三日獨逸の提議即**カイゼル**草案を其儘に承認した。宿志遂に成つた。智惠あるものは獨軍である。虚報を與えて油斷をさせ、一擧其心臟を剳る、而かも用意の周到なる、露都を攻めて恨を買ふことをせぬ。飢饉救濟の義務を引受けんとはしなかつた。十二日勞兵大會を

開いて條約諮詢決議をさせた。

レエニンは遂に天下を取つた。彼れは大小革命家の間に一頭地を拔いたが故に專制で行けた。斷行も出來た。彼れは手段を擇ばなかつた。之れも目的地へ達する捷經であつた。彼れは群集心理の機微を握るに敏であつた。彼れの案出した標語は、露國人を動かすには充分の力があつた。勇斷敢行が常に他人の機先を制した。惡を善とする信念が强かつたからである。露國人は自由平等の輸入語を解しないで、直ちに凡ての義務免除と思ひ、秩序、節度無視と思ふ。此の大衆の啓發は、百年の事業である事を彼れはよく知つた。故に理窟を云はせず、頭から押へ付ける一途で進んだ、彼れの前者は歐米の民主カブレで倒れ、似せ社會主義で倒れた。**レエニン**は單純率直專制を振り舞はして、思ふ儘に獨步した。天下取りは斯うすれば取れる。取つた上は如何にして政權を維持するかが問題である。これも簡單であつた。地主と金持とを平民の下に下して、富

者の財寶を奪つて貧者に與ふる事であつた。聽かざるものは捕え、從はざるものは殺すにあつた。

獨逸とは和議成つた。けれども芬蘭は赤化を排して獨逸の援助を求めた。**ウクライナ**は獨逸の保護領の様な觀がある。獨逸から見れば、可成露國を弱勢に停滯せしむる政治的目的のために、接壤小數國をして、赤化を嫌惡せしむが得策であり、高架索油田に垂涎する經濟上の目的や、芬蘭壤柔で英佛海軍阻止の軍略も加つて、獨逸は對露策に拔目は無かつたが、獨逸を敵とする各國は、更らに獨逸よりも赤化を文明の公敵とするに到つた。外國干渉が始まつた。**モルマンスク**に英軍が上陸、浦汐を日本軍が占領した。反革命の烽火が各所に起つた。**ウハ**政府が國民議會の殘黨に依て、**ウラル**に設けられた。(一九一八年)

クラスノフ、**デユートフ**兩將軍が**ドン**より**カスピア**地方に**コザツク**を指揮した。(一九一八年)

デニキン將軍が、佛、希、羅聯合軍と共に、**オデツサ**より**ボルガ**下流に旗を擧げた。(一九一九年)

英軍が**アーヘンゲル**より、又更らに、海軍が芬蘭灣より進擊した。(一九一八年)

コルチヤツク提督が、**ウラル**より**モスコウ**進軍を開始して、**ボルガ**上流に達して將に英軍と連絡せんとした。(一九一九年)

革命救出は焦眉の急であつた。聯合國軍の封鎖攻圍は、露國革命の劫略蹂躙なりとして、各國の勞働者は、國際的同盟休業を十九年七月二十一日に企圖した。此盟休は數ヶ國に行はれて頗る有効であつた。遂に英國の軍事當局をして、軍隊返還の餘義なきに到らしめた。各國も此れに見習つた。同時に反革命軍は勢を失して、二十年春に**ウクライナ**に**ウランゲル**男爵の白軍が起つたが、此年秋に鎮定した。斯くして反革命の鎮壓と同時に外國干渉も終りを告げた。兵馬倥惚の間、軍制の下に共產主義政治を布いた。

戰時共産主義政治

過激派の政權獲得も、其獨裁政治も、其目的は共產組織を以て資本主義制度に換えんとするのだ、**マルクス**の所說に忠實に聽從して、新經濟を建設せんとするのであつた。

過激派が政府に立つた。國民經濟の復舊は焦眉の急で、之れを克く爲し得るは唯だ過激派あるのみとした。見よ工業生產は二割五分に減產、食糧は窮乏を告げて居る。軍隊からの食糧要求は急を要した、輸送機關は紊亂して役立たない、都市と地方との連絡が悪い、商業は不圓滑だ、商品は品切れ勝だ。政府は善後策に乘り出した。

十七年十一月十四日勞働者の工場監理をやつた。**マルクス**の所謂搾取者の擦取が早速此處に實現せられたのだ。勞働者が工場を監理して、亂暴に支配人

や事務員を免職した。工場長も技師も命惟從ふの外は無く、工場主は無論排除された。續いて生產品の分配も、商業も、金融も、勞働者が監理する事となつた。商事方面に政務官が出來、同時に最高經濟會議が出來て、統一事務を見んとする樣になつた。斯うする事が卽資本主義制の破壞だと考えた結果であるが、斯んなことをして、實は經濟制度を破壞し去つたのである。着々法令となつて現れ、年一月二十八日工業、銀行、商業の國有令が出た。二十年十一月迄に四千五百十七工場が國有に編入された卽全國工場數の六割五分に當る。尙五人以上の勞働者の居る、工場全部を無償國有に移すので、玆に國有工場の中央集中化が始められた。**マルクス**黨は、工業の集中を重視して、米國の**トラスト**發達を、工業國有の前提と見て居るので、此の組織を露國で摸倣して、勞働者の國に資本家の案出した**トラスト**を作つた。個々に獨立して居つた工場を產業別に縱斷聯合せしめ、此縱斷の各系統相互間には、何等關聯する處なくして、最頂部で總括する仕組

とした。此總共締が最高經濟會議である。**トロツキー**の說明が要領を得て居る。曰く「富者支配の下には市場があつた……今や無し。自由商業があつた……今や無し。競爭投機があつた……今や無し。此れに代るものは中央集注化した最高經濟會議である。之れが命令し、組立をやり、監督をする。原料を仕入れ機械を買入れ、製品を賣る。此中央機關から、下級機關を通して凡てを決定する」……換言すれば、工業と商業と銀行とを國有にして、以て需要供給の原則を廢せんとした。其處には、競爭も、投機も、有り得ないと言ふのである。

戰爭、革命は凡てを無秩序にした。此廢虛の中から、國民經濟を更新せしめ樣として、政府は忙殺され通した。鐵工場長に洋服屋を任命し、織物工場長に美術家を以てし、石炭坑長に飾屋を以てした。二〇年の始めには、三百十四萬人の工場勞働者の中に、二百萬人の新任事務員が出來た。今迄は兎も角、資本主義の殘骸があつて、居喰ひが出來たが、之れも最う喰ひ詰めた。自然勞働者の實收入は

減る一方である、多くは都會を去て歸農した。二〇年の賃銀指數は戰前の一割九分に落ちた。主要工業の勞働者數が、一八年の二百四十萬から一九年に百二十萬、二〇年に四十萬と減した。其能率も減した、二〇年には戰前の二割四分三厘に下つた。生産高が一割二分八厘迄減した。細かく言ふと、金屬工業が六分三厘、織物工業が五分六厘鑛業が二分三厘、家庭工業か二割六分の生産をして居るに過ぎなかつた。極端に云へば製造工業全滅を呈した。此の亡狀に對して、涙を流した**トロツキー**!は、農奴時代に於てすら、明かに進歩があつた。革命の新意義の此秋、此有樣を默視出來ようかとて、勞働總動員をやつた。二〇年一月二十九日の勞働強制法が之れで、本人の能力希望を一切無視して、生産に從事せしめた。勞働軍は、無益な勞力消費をしたのみで終つた。赤衞軍を農村へ送つて耕作をやらした。實に狂氣の沙汰であつた。生産と同樣に、私商業を禁して、國家が之れに當つた。分配も失敗に終つた。工業の國有化、生産分配の國家監理

は見事失敗に歸した。密輸入や、禁止品の密賣やが生活上の必要から來る、必然的の事であり、投機市場が一般公衆への供給源である事が、政府者の頭に判つたのは、二〇年に入つてからの事であつた。工場が、無限の富を產み出す海であると言ふ妄想から目覺めたのである。破綻に終つて、新建設は水泡の如く消え去つた。急激な變化は、凡てを無にするものである。革命を打算的に見れば、凡てを全損に歸せしむると言ひ得るのである。革命か果たまた進化か、其得失言ふをまたないのである。

農民の支持を無視する樣な、下手はやらなかつた。政權を握つた翌日、地主と敎會所有地を地方土地委員へ引渡を發令して、農民の希望を繫いだ。一八年二月十九日土地國有令を出して、農民間に再分割をやらせた。此仕事は、政府者が都市行政に忙殺された時であつたから、故障も干涉も無く運んだ。三百年間榮えた土地所有貴族が、斯して一朝に消え失せて、農民は地代負擔を輕減した。土

地を所有せぬ百姓が無くなつた。耕地喝望に對する投藥は、斯うして行はれた。一八年の夏になつて、都市も軍隊も食糧難に蹈つた。言ふ迄も無く、之れは農民の供給に仰くものだ。農民を放つて置く事が出來ない。少くも味方に引付けねばならぬ事に注目したが、由來農民の心理は、小富者である、目前の利害以外には無關心だ。其處で、都市から農村へ階級鬪爭を持込んで、貧農委員を設け、之れを政府者の地盤にする目論見を立てたが、怠け者、無賴漢、厄介者、多く都市から歸農した無一物漢が委員となり、政府の手先となつて食糧狩をやつた。勢ひ種子迄も捲き上げた。言ふ迄も無く、此委員は紛擾の種を蒔いた丈けで、少しも政府の爲にならなかつた。一般農民の敵となつた。**レエニン**の共產主義線上に、農業を持つて來る鬪士は、貧農であると言ふ希望は、之亦水泡に歸した。政府は一九年一月十四日に發令して、歸農者と歸還兵とを集めた、共同耕作、組合耕作制を作つて、大地主の大地積を之れに仕向けた。此の新制度の目的は、大規模の農

場を造つて、地方農民に耕作をさせて、其監理を都市勞働者の手に握らんとするのだ。即ち都市住民が食糧問題で農民に押え付られる、自然的傾向から獨立するのが所期の目的であつた。最劣等農民が標準となるので、失敗は直ぐに見えた。二年を經過して、僅かに全耕地の二分三厘が、此制度を殘守するに過ぎず、農産の九割九分は一般農民の手に握られて、政府者の計畫は見事畫餅に終つた。

共產制度の中樞は、物々交換である。工業製品を、農民の間に均等分配をして、農民の穀産を政府が一手に捲き上げる事である。貧農が得をして、富農が損をする事である。處が、工業が廢滅し製品缺乏……は此交換不成立を來たした。商業禁止だから、農民は市場で買ふ事も出來ない。官僚化した國有工業と商業は、行き詰つたのである。一七年秋には、月額三千八百貨車の穀物の買付を、順調に仕遂げた政府は、翌年には七百貨車を獲たに過ぎない。農民は虎の子の收獲物を渡さうとしない。政府から渡すべき製品が無い。それでも共產主義の維持

を捨て樣とはしない。十八年三月十三日穀物國有令を出した。剩餘穀は全部國へ提供すべしとした。食糧局が出來、之れが軍事獨裁的で、後に食糧軍に組織を代え、七十五人宛の小隊を作つて……都市民と兵士……三基の機關銃を携帶して、村々辻々へと到處强徴發をやつた。國有土地から穫つた穀物は、當然國有だと言ふ議論で農民に臨んだ。各地方に一揆の勃發、食糧戰、都市と農村との反目抗爭と惡化した。農民も政治的に進歩した。自分の立場を確保する位の自覺を持つた。各地一樣に減作を以て應對した。平均四割五分減、甚敷地方は六割減の作付をしたに過ぎなかつた。即自家用を充すを最大限とした。驚いたのは政府者であつた。先づ農民憤怒の緩和策として、農村電化を高唱した。實は百年後に實現される仕事であるが、場當りをやつた。共產主義の試驗は、三ヶ年間、廣い露國に行はれた。其結論は國民經濟の破産以外に皆無であつた。共產主義は、永久に實驗經濟學說で終るかも知れない。

露國は革命の結果芬蘭、波蘭、ラトビア、エストニア、ベツサラミアを失つた。其面積が全露の三分八厘、人口が一割七分一厘に當る。是丈國土か小くなつた。是等を除いた人口が、一九一四年に一億三千八百五十萬人で、戰前の增加率が一厘六九であるが故に、二三年には一億六千萬人に達して居る可き筈だが、一億三千三百九十萬人しか無かつた、差引二千六百五十萬人が不足で、此人口減は、大戰中の戰死、傷病合計七百三萬六千人を除く餘は革命、內亂、饑饉、惡疫、死亡率の增加出生減に基くのだ。一九一一年から一三年迄は、一萬人に對して百六十九人の增加であつたが、二一、二二年には、僅かに二人の增加であつた。都市人口は、一八九七年に全人口の一割二分であつたが、二一年に一割一分となつたから、二十五年の後退をしたとも言へる。此れが共產政治試驗の結果であるが、食糧の缺乏は甚敷い上に、饑饉が襲來した。政府は暴力を緩めない。自然の勢ひは、西伯利亞、ボルガ地方、黑土地帶に百姓一揆となつて現れ、此影響が都市へ來ぬ筈は無か

つた。流石に、革命の精華と誇つた、クロンスタツト兵營の公々然たる一揆となつた時(二一年三月、六、七日)レエニンは、新經濟政策を見付けた。急轉直下、三月十九日彼れの宣言となつた、曰く吾人は農民と妥協するに非んば革命を救出する事が絕望である。農民は吾人との現在の干係を嫌ふ。經濟的に、中農を滿足させて、農民との交換を圓滑にするか、或は此儘無產者の權力維持を頑持するか、但しこれは經濟的には出來ぬ事が明かとなつた。此の途惑ひ考慮から產み出したものは、新經濟政策である」と。

新經濟政策

新經濟政策とは何ぞや。政治的性質のものたるは勿論共產主義の基本條件を捨たもので無い、政治上では、共產黨獨裁を失はず、政治的綱領に變化を來たさず、現在の力を益々强めて行く、卽政治上些の馳緩を許さないが、經濟上の馳緩

丈を認めて行かう。國民經濟の監理は綏める譯に行かぬと言ふのである。もうすこし判りよく說明すると、勞働無產者と農民とか、新基調の上に聯盟を創設したものだとも云へる。工業生產品と、地力生產品との交換が戰時共產時代に全く行き詰まつた。此交換を一步、一步漸進的に進め樣とするのである。卽農產徵發に代ふるに穀稅を以てした。農民は手許に餘つたものの處分が自由に出來る樣になつた。從て小賣商賣買行爲が自と生れる。農具鎌釘を買ふ必要が生じ從つて小企業が國營から解放される。營利本位で銀行商鋪が開業される。同時に引合ふか引合はぬかと云ふ營利原則が凡ての方面に適用せられる。此れが新經濟政策である。然し商業の自由資本主義の發達と無產者國制とは兩立しないものだ、故に私營商業資本主義を國家の絕對監視の下で制限した範圍內で許容するものだ。同時に國有企業は凡て其の利益を國家に貢納する經濟基調の上に再建せらる可きものとした。之れを國家社會主義と呼んで居る。

トロツキーは直裁簡明に曰つて居る曰く、新經濟政策は共產黨政治を基調とする(一)。生產方法の國有制の上に立つ(二)。外國貿易獨占の上に立つ(三)。蓋し此の三者一を缺けば、全構成は土崩するを免ないと。要するに其重心は、農民に對しては剩餘農產物の徵收を廢して、一定率の現物稅とし、其他の剩餘生產物は、各自の自由處分に任せた事にある。其他の生產工業に於ては、より强大に、より利益ある生產部分に精力及物質的方策を集中し、之れを通して、全生產の上に於ける、國家の監視權を確保し、漸進的に、全生產の完全なる國營に向つて進むにあると言ふ。此政策の下に、小規模の製造工業は個人企業の經營を認め從つて市場、取引所、自由商業等の發生を許容した。私有資本の手に委ねたものは、國家權力が管理し得ない丈のものである。然かも、私有資本に委ねた企業の發達は無產者獨裁政治の絕對監視下に措かんとするものである。故に許容された、自由營業は、有名な勞働法の下にある特に保護せられる消費組合と對立する。

無産者の獨裁政治は、全幹線鐵道の管理、外國貿易の監理、重工業の監理、全教育の監理に依つて、其實質を失はざらんとするものである。

農業の復活　二一年、二二年大饑饉が襲來した。由來露國は回期的に饑饉がある。けれども此饑饉程多くの犧牲を拂つたものは嘗て無かつた。政府の食糧政策が重大な原因であつた。國有工業の廢滅……農民の減作、抗爭……食糧强制徵發……饑饉の到來……東部三十縣に亙り、人口二千八百萬を擁する**ボルガ**地方は、春來無雨、收獲皆無……政府無策、座して死を待つの外は無かつた。外國救恤によつて幾分の犧牲を取りとめた、饑饉に續いて惡疫が流行した。二二年は作物良好、稍愁眉を開いた。食糧政策は、經濟原則に立還つて、生産增加が基調となつた。共同耕、自作耕の自由(一)現占有土地の永續占有(二)に依て生産增加の工夫が講ぜられ、二二年の土地法で之れが安定を見たのである。蒔付反別の增加、家畜の增加が如實に見えて來た。相離れ、殁交涉に陷つた、都市と農村とは、敵視反目狀態から、再び親善干係に還つた。

貨幣制再建　貨幣は資本主義經濟に特有のものである。共産主義では、交換、分配上貨幣を不用のものとする。故に貨幣を排斥する所有方法をやつた。濫發に次くに、濫發を以てした。何程濫發をしても、通貨消滅不可能なる事が、數理的に證明せられた。舊貨幣制度を再建して通貨の安定を計つた。前政府遺産殁收、徵發、紙幣の濫發で、これ迄は兎も角切り抜けて來たが、貨幣制の再建と同時に、正規的課税を基礎とする豫算の上に立つ事にした。二三年、二四年度豫算を、始めて金貨留布で編成した。

外國貿易獨占國營　國防院は、輸出奬勵を根本として、十の輸出に對して八の輸入を原則として貿易省に命令した。極端な輸入制限政策の繼續となつた。之れが實施は、外國貿易政府獨占で、始めて達成し得る事とした。否らずんば、忽ちに輸入超過、準備金貨沸底、再び經濟破綻を演出するからである。けれども外

國貿易の獨占、それは純乎たる官僚制度である。維持費の大は勿論だ。費用倒れである。一部資本主義を許容して國民經濟發達を促進させたが、此發達は必ずしも共產主義の一線上を行くもので無い。

國家は最高所に在つて私營企業と國有企業との、果又農業生產との對立を監視するが、此の監視監理が機能を發揮し無いのみならず、機能を失ふのである。大戰前の歲入は農業歲入か、工業歲入の二倍であつたが、二四年には四倍になつた。換言すると工業化で無くて農業化を演したのも皮肉である。政府の所期と逆行したのは、これのみで無い、二二年、三年は工業の生產過剩を見た。と言ふのは、出來た製品は滅法に高い、農民は自然買控えた。高價品を農民に賣り付ける外に切拔策が無い。**トロツキー**曰く「工業の損失……國家の損失……農民の負擔……農民は遂に曰はん、國境を開け、外國貿易を自由にせよ」と。然り外貿獨占は……封鎖である……農民にも對抗策がある。二三、四年農民は農產原料品

の値上をした。此年十三縣七百六萬人を擁する地方の不作は、農民の對抗を刺擊强調した。稅金支拂の外には不賣をやつた。穀價は倍額に上つた。工業製品は生產過剩、農民不買。値下を命する外は無かつた。二四年には前年の二割五分引に下つた然るに穀價の暴騰、賃銀の增加……生產費は嵩む……生產費以下にて賣出す外は無い……國家資本の蕩盡で無くて何であらう。穀價引下……穀物輸出禁止、加奈陀麥の輸入迄も企圖した。直ちに原棉輸入禁止、紡績操業中止農具輸入中止となつて現れた。此時**ゼルジンスキー**が最高經濟會議長となつて、勞働者の生產力の低い事を責めたが之れは當らない。罪は國家の經營法がなつて居ないからであつた。能率の上らない事は、戰前百人の勞働者で出來た事が、左の人數を要する樣になつたので判る。

石炭	二一四、	石油	一七九、
セメント	二一七、	燐寸	二四九、

府の下で、賃銀引下が容易な業で無い事は明々白々、況んや戰前の賃銀よりも低きに於いておやである。勞働者は王宮、大邸宅に入つて住んだ、自然其欲求は大とならざるを得ない。

カーメネフは賃銀引下げを叫んだが、無産者が特權階級で、此無產者の獨裁政

政治的に農民は幾度も試練を經た、死線を超えて來た。今や國民經濟の上に自己の確固たる立場を自覺した。政府は此勢ひを無視、等閑視する譯にゆかぬ。農民の要求の增大と、新經濟政策成金者の客喙の二つが政府に楯突く樣になつた。賢明なる政治、民の牧者は、億兆生民の幸福、民力の休養を講するか第一、以つて國民經濟の破滅を恢復するの外は無かつた。信望ある政府治下に、政治も行政も民主的であれば可能の事であつた。けれども共產黨は斯る途を進まぬ。强固な城壁を構築して、一旦把握した政權を取逃がさじとするを第一義とした。

此權力把握を失はんよりは、寧ろ共產主義を放棄するを可とした。之れが爲めに露國を毒するか如きは介意する處で無かつた。今や政府は農村の富農に支持を求めつつあるのだ。最早や、貧農は顧みらるる處で無くなつた。

工業の再建　小規模工業と家庭工業とを國有制より脫せしめ、其他を依然國有制で行くのである。**レエニン**は一九一八年に既に此新經濟政策採用を決心したが、急進派に阻止せられた。强いて爲さんとせば捕縛すると威嚇したのが、**ジノヴエフ**であつた。**レエニン**は三年間成行に任せたのである。外國資本投下……招徠の途を拓いた。監理方法は生產增加を根本義として、**トラスト**の形式にした。共產制時代にやつた**トラスト**とは異て、**ビジネスベーシス**の上に立たせ、幾分私權の享有を認めた。舊來の重役、技師、事務員の復歸を促がして、全滅に頻した大企業を纔に喰止めた。之は實に露國の工業を九死の間に救つたものである。**レエニン**が、**マルクス**は共產主義學說を敎えたが、工業經營、鐵道の運

轉の方法に到つては、吾黨の先覺は吾等に何ものをも授けて居ない。吾等は舊時代の專問家より之を學ぶ外ない破目に陷つたと嘆聲を洩らしたのは此秋である。此れ等の歸順者の大多數と、極少數の共產經濟學者とで動き初めた。四百三十の**トラスト**か國家總機の下に集注されて、夫々單獨經營で、政府の中央監理の拘束より自由に、商業活動の稍廣い範圍へ乘り出した。事業本來の經營原則に立還つて、職工の減員、撰擇、働日の增加、請負制の奬勵と言ふ樣に、一意生產の增加に邁進した結果、國有工業は、二四年には戰前の六割七分、二六年には既に戰前に超過したと發表して居る。生產の增加したのは、企業心理の痲痺から解放された爲めであつた。**トラスト**の資金は政府が支出した。政府は漸次銀行へ肩替りをした、銀行の貸出が嵩んで來た。國有企業の損失は、全部國家の負擔で、之れが莫大なものであつた。政府は**トラスト**を、商業會計組織として政府直接の損失負擔を防止した。

私營商容認　新經濟政策の最も顯著なる表現は、私營商業復活であつた。國營商店、消費組合との對立は、以て此れ等公設機關を刺擊して、其發達に資するものありとした。二二年乃至二四年に登錄せる店鋪四十四萬四千の內、私營八割七分三厘、消費組合八分三厘、國營四分一厘の割合で、**モスコウ**の如きは取引高も多く、戰前の五割五分に達した。專問的商人官僚商人の對抗であつて、政府の絕對監視下でも官僚商人の敗北を演じた。**レエニン**が憤慨して、武力で天下を取つても、算盤で敗けたら何にもならない、商人に見倣へと、黨員を叱咤したのは有名な話。其裏面には新成金者が生れた。買占め、投機、浪費、成金征伐……私營商撲滅運動と進んで來た。私營商は壓迫に對抗して商業的技術を發揮して、存在を續けて居るが、懷具合は、收益の殆ど全部を徵稅されて漸くに生存を續けると言ふ有樣である。私營商の活動を殺ぐは、公設店鋪を保護する所以であるが、刺擊の無い保護は、所謂溫室商業を作るもので、其結果は知る可しであらふ。

組合制度

露國は組合制度の發達に於て、相當に認められたものであつた。共産政治の初期に信用組合は、自然消滅の運命となり、消費組合、農業組合の二者が國營分配所に變更せられた。新經濟政策と共に、此組合制度は復活したが、何人も加入の出來る會員組織であつて、嚴重な政府の監理監視の下にある。革命前の組合は中流者以上のものであつたが、無産者獨裁のものに變つたのである。政府の期待する所は、此れを分配機關に發達せしめて、以て私營商人撲滅を期する武器たらしめんとするにある。之れを政府者の官僚制度、共産式機關だと猜疑の眼で見て居るものが多い。中央消費組合の如き、取引高の大なるは事實であるが、國立銀行の融通高も、從つて巨額である。此れ等凡ての組合の內容、裏面が整然たるものありや否や。他日大破綻が、此邊に潜んで居る樣にも看取せられる。此觀察は蓋し當らずと雖も、遠からずであらふ。私營商の仲介無しでは組合の活動も出來ぬのが現狀である。換言すれば、經濟活動は、私營商を消滅に

導かない許りか、外國貿易にも喰入つて來る。歿收、流刑、逮捕等が私商人の上に不絕加へられる。課税を重くする。加之政府は、組合制維持に多額の資金を要する。之れを補塡する爲にも私商へ重税を課せねばならぬのであると云ふ事である。

鋏の危期が起つた。二三年に國營工場製品が割高で、農民の穀物が割安で再び都市と農村の背離が始まつた。國營製品が農民の手に渡る迄に、幾多の國營機關を經ると、種々の雜費が加はる。高くなるのは自然である。政府は貿易を輸出超過の趨勢に導く事が第一義であるが國營機關を經るに從つて諸經費の膨大を免れない。依つて以て政府收益の多からんを期するには、國內穀物市價を可成低くせねばならぬ。農民の手取りの少くなるは自然である。

失業者の增加は當然の歸結である。二二年に六萬八千人、二三年に二十八萬三千人、二四年に六十一萬人が五十二都市での失業者數である。全露の失業者

數か、二四年に百三十萬人に達した。賃銀指數が二二年に戰前の二割四分、二三年に五割二分、二十四年に六割五分。農民は泣いても、都市勞働者は可愛がられた。

共產制度の失敗は言はずもがな、新經濟政策の實施も、苦腦を減ぜない。政府者の濫發した約手の支拂が出來ぬ。即ち新經濟の再建は、戰前狀態に復舊する事を第一義として突進したが、行程遲々たるものである。外資を招徠して、資源の開發を速かならしめ、以て物質的幸福を隣接國程度に接近せしめ樣とするのが利權政策で、最高經濟會議の下に設置せられた。**トロツキー**曰く「露國の國營企業は、片脚を農民相手の市場の上に、片脚を國家支持の上に立つ。此國家の支持が同時に農民の肩上に在るものだ。農と工との妥協、平均が成立せねば、露國工業は辷り落ちて終ふ。政府の重要策は此平衡を謀るに在る」と。然り、彼れは此辷り落つる事を豫感して居る。露國の工業を此儘に進めて行けば……毎年

七、八億の資金を注入して、所謂保護を加へても、溫室工業を再び建直しても、被征服國民の衰亡狀態と相距る遠くない結果に歸着する事と見て居るのである。

革命と農業

露國の革命は、一面に於て耕地革命であつた。革命の眞因は實に此處に存した。都市工業勞働者が革命の指導者となつたが、農民が之れに賛同すること無かつせば、革命は失敗したかも知れない。

露國は云ふ迄も無く農本の國で、文化の進退貧富一に農民の生產、即露國穀產輸出能力に左右せられる。

十六世紀に**イワン**三世時代より、殖民國是、領土擴張政策で、征服に日を送つた。遠征は即軍人と金とだ。征服功勞者に土地を與へて酬ひた。軍費は課稅で調達した。集稅は地主の責任で、地主は、農民から無理にも取り上げた。其丈で大

地主か出來、土地の上に農奴が出來、十六世紀後半より一世紀間に、知らぬ間に農奴制が熟して、農奴は土地に附着して、土地と共に賣買せられ、地主は官吏、集税吏、裁判官を兼ねて農奴の自由、生命は全く地主の意の儘で其掌中に在つた。自然農民は家畜と同様に取扱はれ、單に納税の具として存し物であつて、被治者では無かつた。弱者同情、不正なる力に、反抗の思想が廣まつて、遂に一八六二年農奴解放をしたが、此解放が今百年早かつたらと思はせる位で、時既に遲しであつた。

當時農産物の位置は、一八五〇年迄は増産をしても、國内で處分する方法が無かつた。一八四七年英國が穀物條令を撤廢（一八四六年我嘉永元年、愛蘭に饑饉あり國を去る者多かつた）して、輸入に仰く時が來た。更らに一八五一年西歐の不作で露國穀産が始めて輸入された。此經濟上の變化か、農奴の解放を促かす實力となつたが、穀物の市價が高まれば同時に、地主の期待も増して、農奴は解放したが、自然不徹底であつた。サリトテ大地主耕作も出來ず、又有力な農民も出來

ず、此解放の不徹底が革命の因を爲した。即農民が必要とし、欲する丈の耕地が割當てられ無かつた、耕地不足が革命の原因である。

農民に賦役課税など言ふ不徹底な制度もあつたが、一八八一年に廢止せられた。解放後の大問題は云ふ迄も無く、耕地不足であつた。頭割り耕地面積は加奈陀や、北米に劣らぬのに、生産が之れに伴はない。即問題は反別にあらずして收穫である。露國の農業では、技術の未進歩の爲め割當反別丈が重要問題である。從つて農民人口數の、増加に隨つて、絕對絕命の難問となるのは、數の明かなる事である。

ミール制　**ミール**とは集合の意、即村の一ヶ所に少い吊鐘があつて、之れを鳴らすと、村中が其處に集合して相談決定するのだ。其内容は、一村の耕地、牧草地が全部共有制である事。耕作法が三作制又は四作制である事。每年の蒔付の種類反別迄が同様である事。一回轉作がすむと更らに均等に耕

地を分割する事。分割の方法は不公平の無い様に細長くする事。一旦農村を去ると再此分割を受ける權利を失ふ事等である。

經濟活動の幼稚な時代には、露國特有の共有制で、理想的なものと讃えられた事もあつたが、後には共幣害多くして時代の進運に伴はぬものとなつた。

此の制度と農民との干係、拘束が纒綿して、農業未進歩、後退の主因となつた。

十九世紀末に到り、人口が増加しても耕地面積は、依然たるものであるから頭割反別は、反比例に減少するは當然である。然るに集約農法に進展する事の出來ぬのは、此共有制の勤勞標準が、村内の最劣等者であつたからである。語を換えて言へば、再分配を繰返すために、土地を良化する勞力か無になる、良化させ得ない結果となる。耕作法は堅く三作制を守らせて、土質の善惡共他の條件に拘らず、三作制を強要した。之れ皆共有制の當然の歸結だが、之れでは約收農法へは向はれぬ。細長條分割制と耕作技術上の不便共他で、農の進歩を防げた。

穀産の輸出で増收穫は卽増收益であるから、農村の自然發達は、人口の増加と伴つて資本家農業の發達となつた。之に反して一般農民は益苦境に陷つた。

農奴解放後四十年間で、人口は四千五百萬より八千五百萬に増加したが、耕地は一億一千六百萬町歩から、一億四千萬町歩に増加したに過ぎぬ。從て頭割反別は一八六一年に四町八分であつたか、一九〇〇年には二町六分に減した。一八九〇年調によると、穀産及枯草の餘剩ある者八、九％、自家用丈定るもの二〇、四％、不足せる者七〇、七％。卽農民の七割は自家の食糧及馬糧に不足した。

農家に資金を供する農銀行を造つたが、農民間の差等を大きくした外、多數の農民を救ふ何物をも供しなかつた。

穀物市場が西歐に擴大せられた爲に、資本家農業の發達を促し、九十年代に穀價の騰貴と共に發達した。穀産の輸出が、一九一一年八億布度(千百萬噸)に達したのを見ても、其大勢が判る。斯る大勢の當然の結果は、貸地が減して大衆農民

は耕地不足を感ずる事、益甚度きは、亦當然で、之が一九〇五年暴動の原因である。一八七〇年及一九〇〇年の調査に依ると、此百三十年間に、農村人口の增加は五六、九％であるのに、耕地反別の增加は二〇％家畜の增加は九五％である。此れが何を物語るかと言ふと、耕地は僅かに、農村人口の三分の二を養ふ事が出來る丈けで、三分一は、耕地無しと言ふ推理に到るのである。此事實が、革命の空氣を醸成した。

一九〇五年革命は、全く農民革命で、時恰も日露戰だ、政府を驚かしたけれ共、何等脅威する力は無かつた。之れ農民は散在せる故に、組織的に動く力が弱かつた爲めである。乍然此革命は、農民に土地は農民のものであるとの信念を抱かしめた。自由を叫んだ都市盟休勞働者よりも一層强いものであつた。

政府の態度は、都市勞働者に向つては、發砲もしたが農民に向つては、此高壓手段を避けて、妥協した。兵士が却つて農民の要求に贊同する恐があつた爲めで

ある。卽政府は農民に降伏するを可とした。**ウヰツテ**伯は、一九〇五年革命を土地を農民に與えよといふ農民の叫びだと言つて居る。

此際に此難問題に當面して立つたのが、總理大臣**ストリピン**で、此人の改革案は、**ミール**と農民との拘束を斷つて、土地獲得を自由にした。以て耕地喝望を醫すべしとした。以て革命氣勢を殺がんとした。一九一〇年に顯れた現象は、百五十萬戸(七百萬人、千二百萬町歩)が、**ミール**を脫退した。內一割位が土地を金に換えて居村を去り四％が自作農となつて、古い傳統を脫した。殘りのものは依然として、土地不足、資金不足であつた。抑も此の改革の本旨は、露國農村は貧富共に一階級となつて、地主に對抗して居る。其目的は耕地を獲るに在る。故に農村**ミール**制を破つて、其團結を解き、土地獲得を自由にして、地主對農民爭を、農民對農民爭に轉せしめ様としたのであつた。勿論他にも農業改良の幾多の案を含むが、上記の如く**ミール**の傳統を去つて、積極的經營に移つたのであつたが、

自作農が四%では、此の改革は失敗であつた。耕地に對する農民の封建的干係を解いて、居村に留るも、去るも、任意となり、耕地を賣る事も、買ふ事も、自由で、進んで有利な經營に入る事も出來る樣にはなつたが、猫に小判で農民の八割は、此特權に浴する丈の資力の無い貧農である。依然として、政治的に奴隷で、臣民でなくて、物である、道具であつて、市民で無い。水飲百姓が自作農となるには、少くとも十二町歩が最少限度で、これ丈を所有せねば、獨立出來ぬ事が既に西南國境地方では以前から證明されて居るのである。之れ丈の反別が割當てられぬとすれば、其不足は、集的農法で增收獲を計つて、補はねばならぬ。此問題は一九一七年革命の後にも、繰返された。斯んな改革騷ぎの間に、十年が暮れ去つて、農民の政治的意識が旺になつた。

一九一七年、革命は政治的に見ると、水吞百姓を一躍市民に引き上げた。公權なき者に公權を與えた。凡ての農民が均等に土地を占有する事であつた。即

此革命は實に耕地革命であるのだ。

レニングラードに於ける革命は、實に食糧不足に處する對策より勃發し、遂に壓倒的なものとなつた。而して臨時政府は、耕地問題解決に失敗して、斃れたでは無いか。耕地問題に對して

第一臨時政府は成案を得ずして倒れ、

第二臨時政府は、國民議會召集を俟つて解決すべしとの案を以て臨み、農民は即決を望んで反對し、地主は質入賣却の禁止に反對した。

ボルセビキ革命が、農村で成効した理由は、

一、耕地問題の卽刻解決、

二、大戰に原因する徵發防止を冀ふために、戰爭繼續を主張する主權者の消滅、

の二つに歸せられる。革命の犧牲が、農村に案外に少く、數ヶ月間に成効を見た所以は、此處にある。都市に於ては、和戰の兩說に岐れ、政府は新攻勢に出て、決定

的に勝利に突進する準備に多忙して居る時、農村では國民議會召集をまたず、自ら耕地問題解決の法律を制定せんとしたのだ。

都市住民は、農民が奉公の態度に誠實なるものと信じたが、農民は三年の戰爭で疲弊し切つて、最早耳を藉さない。 戰線脫走兵は、旺に革命を宣傳し、七月攻勢の後には、逃亡兵益增加する許りで、八、九、十月に黑土地帶及中部地方に暴動續發し、**ボルセビキ**は、何の苦も無く、犧牲も無く、共產革命を成立させた。 乍然共產政府の、對農策は失敗であつた。

一、大農組織で共產主義の下に、農民を統制し樣としたが、之れは耕地の社會化に反するものとして、社會黨が二十年來反對した方法であつた。 農民は反對した。

二、農民の利害を顧慮せずして、都市民の利害を過重視した。 其結果農民は、耕地問題解決後は、最早政府に聽從する利益が無い、仍て收穫物の自衞上一致

して、**ボルセビキ**政府に反對した。

都市民對農村民の反目、食糧戰爭は斯くして起つた。

革命は農村貧富の差を接近せしめたから、此次ぎは平等の完成にあらずして、差等漸增傾向が自然の成行ではあるまいか。 政治家が此傾向を捉へずして、滿三年間(戰時共產時代農村へ社會主義關係を持込んで、空想の理論で、無智な百姓を煙に捲いて、日を暮らした。 實際に卽して居ないから、生產の致命的要點を無視した。 農民は生產減で、政府に對抗した。 階級鬪爭意識でも、共產主義信條でも、農民一致の生產の減退を制止する事が出來なかつた。 政府は益徵發に鋭意して、强制徵發を命じ、此處で政府と農村との抗爭となつて詰まる處、一九二一年になつて、二つの結論に達した。

一、强制で農村の生產增加は不可能だ、

二、强制徵發で餓死する都市民を救ふ事が出來ぬ、

新經濟政策は、農民を再び市場に立たせるの謂に外ならぬ。換言すれば、**ボルセビキ**革命は、農村の資本主義發達の顚覆と、農民差等の徹廢の二つに歸着する。新經濟政策に依つて農村は、革命前の樣にはならぬが、同じ傾向に向ふものと見るのが妥當ではあるまいか。

革命前の農村は

一、徐々ではあるが、耕地面積は增加した、

二、集約農法へ進みつゝあつた。自足農より市場農へと進出した、

三、農民企業心の發達と共に、**ミール**制の解體を見るに到つた、

を見るが、革命後は

一、集約農法に代るに、粗笨農法となり、再自足農に後退、

二、農民無差等で、昔の**ミール**制に復歸した、

資本主義農の最高度と見らるる、一九一五年と、農民平等の最顯著な一九二〇

年の一町歩當り收穫を數字で示すと、

	ライ麥	小麥	オーツ	大麥	馬鈴薯	亞麻
1915年	63	68	49	56	465	26布度
1920年	29	26	35	24	360	15布度

之れで技術の退化、耕作の不注意がよく判る。加之蒔付反別は、四〇%を減じた。此れが史上嘗て見ざる大饑饉の原因である。

戰時共產主義時代の、都市對農村關係は馬鹿毛た現象である。云ふ迄も無く農村は、收穫穀を都市に供し都市は製造品を農村に供すべきだ。之れは交換の標準が妥當である事が、唯一の要件であるが、穀產は暴落して、製造品は暴騰した。遂に農村民は都市民を見捨てた。共處で共產政府は都市民の支持で樹つて居る政府だ。已むを得ず、何等の論據の無い强制徵發をした。「國有土地より、收穫せる穀物は當然國に屬すべきだ」と言ふ遁辭を以てした。餘剩穀のみならず、農

家の必需穀迄も取上げた。農民は生産減を以て之れに酬ひた。少く作る事を眼目とした。一九二〇年食糧品監理、都市民饑餓、農民半死半生、夏中無雨、大饑饉、悪疫流行、之れが爲め死せるもの凡五百萬人を下らぬと言ふ。

新經濟政策實施後は

一、政府の穀産獨占及强制徴發の廢止、

二、農民は穀産の持主として市場へ送り得る、

三、穀産の賣買は自由（數ヶ月前迄は大罪）

四、耕作誘導、

に變つて來たが、現在に於ける耕地分配と、革命前とを比較すれば、

	現在	革命前
四町歩以下	八〇、五％	三七、％
四町—七町	一六、四％	—
七町—一〇町	三、一％	六三、％

革命後は小農が殆ど全部で大農が殆と消滅した。革命前には過半の大農が存在したのである。

革命家の胸勘定では、大地主、貴族、寺院、帝室所有耕地を解放すれば、それで充分の耕地が農民に行き渡ると言ふ計算であつたと言ふ。實際から出立して居らぬ革命家の考え付き相な話であるが、自作農には十二町歩以下では不足だと言ふ實驗が、以前より論據とされて居るに拘らず、革命後全露の平均が毎戸五町餘で到底不足を免れない。或る地方は二町七分位しか當らぬと言ふ。革命家の胸算外れである。

一九二二年に土地法が布かれた。其目的は理窟敗けに懲りて、實際的で、生産にあるのだ。耕地の賃貸も、農夫の雇傭も差支ないとした。收穫物の徴發に代えて、一九二一年の最初の三ヶ月間に十三種の税金が課せられたが、後に單一と

なり、一九二四年に全部が貨幣税となつた。税金は所得税の形ちであつて、耕作反別によつて九階段に分ち、家畜の數によつて四階段に分ち、收穫高によつて數階段に分ち、遞增率で取る。農民租税負擔の餘力の有無に關しては過重と言ふものと、過少と言ふものと二説あるが、税額は帝制時代より幾分低いと言ふ事である。然るに生活必需品價が高い爲めに過重と言ふが至當であらう。

革命が農村に何を齎らせしや。耕地問題の解決が、單に所有權の變更に止まつて、其以上に積極的進歩が無ければ全く無意味である。封建的耕地制度、大地主消滅は抑の第一歩に過ぎぬ。何としても耕地は足らぬのである。今後の大問題は此粗笨農を如何にして集約農に導くかに在る。過去の一世紀間は、啻だ耕地擴張一點張りであつた。集約耕作や、市場獲得やを無視したが、今日に殘された問題は集約農を達成する一途があるのみである。今後の露國が此儘潰ぶれるか或は榮ゆるかは農業の增産が可能か、否かの問題と、農業の集約達成が可

能か否かの二つであつて、此絶對問題の前には主義も主張も無いのである。全くの經濟問題で、毛頭思想問題では無いのである。

集約農法の進歩顯著の兆もある。春先きに鋤入を早くする丈けでも二〇％の增産が得られると言ふが事實はどうか、

革命直後に

共同經營……個人單位……收穫物均分

團體經營……一戸單位

國有土地小作……月給を貰つて收穫物を政府と平分する

等何れも革命直後に大農主義の理想案を以て、生産增加を期し得可しとしたが、農民は理想家の名案を有り難しとせぬ。農民は、所謂小ブルジョアの心理を以て、自分の耕地は自分の所有を望んだ。ユートピア思想と、國營穀産製造所案は、撤回するの外は無かつた。個人の企業心、個人の責任が再び農事の根本動機

となつた。農村機械化のために、政府は公共の性質を帶ふ使途には金を貸與する。肥料や、種子の分配もやる。凡ての改良指導の宣傳に熱中する、無數の**ポスター**が、農村に貼られる。此れ等が所期の効果を擧げ來る時を活目して觀る可きである。若し夫れ**レエニン**の農村電化に至つては、一世紀後の事である。

露國農業の進退は輸出量を撿すれば見易いのである。一九二八年に到れば戰前に全部の恢復が出來ると言ふのが、政府の目標である。果たして其丈の復舊併に進歩がありとすれば、本年の輸出は壹千萬噸位に近きもので無ければならぬ。到底斯る大量輸出は近き將來に期待する事が出來ぬ情勢にある。

露國穀産と市場との關係は如何。穀物世界市場の分野を見るのも一興である。

	一九一三年	一九二二年
露國	二〇、二%	—
加奈陀及北米	四〇、二%	六九、五%
濠洲	五、八%	七、四%
アルゼンチン	—	一二、二%
其他	一八、八%	一〇、九%

世界穀産市場に於ける露國の勢力は偉大なるものである。加奈陀北米の增産には無理のあるのは當然であるから、露國穀産が市場を再び把握する見込のある事も當然であり、現に恢復しつつあるが、露國の四大穀種の輸出量は全生産量の（一九一三年）小麥一五% **ライ**麥三% **オーツ**四% 大麥三四%に當る。即低級な安價なものが多いと言ふ事と、革命後は小麥に對する國民的嗜好が日增しに深くなるから、小麥の輸出量が大に減ずるものと見る可きであらう。**バター**、**チース**、鷄卵の輸出に於ても、略同樣の傾向が見える。此國內消化量の增大は革命の直接の結果であり、自然輸出量の減退を招く。此大勢に抗して輸出の增加を計るには耕地の長條分割と三作制を廢止して、全力を集約化と高級穀生

産に集中すべきであるが、何よりも強烈な刺撃は、外國市場の影響であらねばならぬ。百の說法、指導、理論よりも、之れが最も有力だと斷言し得るが、貿易國營が輸出穀物獨占をやる。可成安く農民より買取つて、外國市場で賣り放つて、其利鞘を國の收入とする。若し夫れ斯種大規模な實業監理が下手に行つて、間接經費が膨大し、市況に乘ずる商業技術に失敗するならば、此國は全く光明を失ふのである。基本産業の生命を失ふからである。今の處、未だ何れとも判じ得ない。之れは共産制、國家社會主義制度の罪であり、缺點である。此の缺點丈けを除去する事が、今後の問題であらねばならぬ。

革命直後には貧農を以て、革命政府の地盤とする計畫を立てた。之れは不評と憎惡とを買つたに過ぎなかつた。農業生産第一主義で、土地法が制定せられ、新經濟政策時代に入つて四、五年を經過すると、中農、富農の擡頭が顯著になつた。穀産を輸出して國民經濟の基調とする事は、日本が生絲を輸出して貿易の平衡

を計ると同じ重要性を有する。穀産の輸出を誘導奬勵するには、中、富農を保護するの外は無い。其處で、一九二五年の秋には貧農を保護して、中、富農を壓迫すべきやの大問題が起つた。大勢は貧農主張者の敗に歸した。露國の工業は依然として不振を極めて居る。準備の無い工業が數年間に發達し、能率を擧げ得るもので無いことは、苟も經驗者の知る處である。革命後の工業は革命前の復舊を目標として進んだ。政府者の說明するが如く、未だ復舊の域に達して居らぬと**トロツキー**は獅子吼する。今後の發達も樂觀出來ぬ。此儘にして進めば、無産者の勝利で無くして、被征服國民と擇ぶ處が無いでは無いか。此處に處する途は露國に資本主義の爛熟時代を一日も早く達成せしめて、以て社會主義時代への一過程を、可成短かく通過するの外は無い。其手段として資本を要する。一は外資招徠を以てする。利權企業の奬勵保護である。他は國營企業の擴張振興である。輸出農産を資金化して此目的に投ずるに在る。穀産を安く買上

げて輸出し、以て資金化するに在る。農民への課税を重くするにある。即富農を壓迫する政策の必要を高唱する。露國革命を救出するには、農民の犠牲を強要するに在りとするのである。斯く主張する、**トロツキー**と援農主義……國民の八割が農民なるが故に……の**スターリン**との爭、幹部派、非幹部派の爭となつた。露國の實情は恐らく、**トロツキー**の所説を眞なりとするであらう。けれども政治乃至權勢爭は眞理を追ぬ場合が多い。**トロツキー**一度蹉跌すれば、彼は今や、**モスコウ**より十四日旅の、中央亞細亞に、一農民となる外は無い。けれども幹部派の政策が援農一途で行き得ない事は明である。畢竟農民の犠牲を強要するの外は無いであらう。工業生産が、云ふが如く、増加し無い爲に政府は國民生活の必需品供給の責任上、工業化を一層急務とし、眞に足許の火事視するに至るからである。然し餘り農民を苦むれば、市場農より再び自足農に還元して、輸出穀産を減退せしむる。此戰術が農民の強い處である。農民の勢力は散在性

であるが爲に、直に政府に逼る、危險性は無いにしても、結局露國を支配する眞の力は富農の集團より起るであらう。露國の革命を農民革命と視たいのである。

新幣制と外貿獨占

戰時共産時代に一萬七千人の印刷職工が、晝夜紙幣の製造に從事しても尙足らなかつた。革命の初め頃には、限度の四、五倍の發行であつたが、歲入不足に對する濫發の常用手段が三年間繼續せられた。斯うして出來た紙幣が無價同樣となるは當然であるが、共産政策、卽ち商業及財産の國有に依て、財貨の自由な交易を殆ど除外するに到つては、貨幣は私的資本を蓄積する主要なる手段であるが故に、最早や斯う決した以上、論理的には勿論、實際的にも貨幣廢止に向て進み、其最良手段は貨幣の價値を極端に低落せしめて、以て其存在を失はしめる事であつた。以て國民をして留布を捨てしむる爲に、敢て濫發を續けたが、濫發に依

て通貨を無價ならしむる事の不可能事も數理的に證明せられ、農民は此不安極まる通貨と交換では、何物をも賣らなくなつた、其處で一日の猶豫も出來なくなり、時恰も**トロツキー**と**レエニン**の爭ひが熾烈になつて、輿論の味方を**レエニン**が握るには貨幣安定策が國民の熱望するものであつたから、之れを揭げ、**トロツキー**派を一蹴した。語を換えて云へば新經濟政策による自由交易の施行と共に安定した。再び貨幣は交易の媒介として必要不可缺となつたのである。斯う云ふ行懸りで、一九二二年十月に國立銀行に發行權の行使を命じ、二四年二月に實施した。其直接の効果は、都市の食糧を補給することが出來て、差當り成効した。此安定通貨の制定は、經濟的敵國に對する無產者階級國の重大なる經濟的奮戰、決戰であるとして、此制度の確立には蘇衛土國の發達の能否の大部分が懸つて居るとした。其處で直に勞働賃銀貳割引下の斷行をやつた。信用の膨張を防止し、商取引信用を極度に制限した。外國貨との爲替を禁止した。犧牲

の精神を勞働階級に要望して、近き將來に賃銀の增加は不可能なりと宣言した。戰時共產主義時代に定めた貨幣全廢の目的地には達せずして、卽ち經濟生活の社會的改造は行れずして、舊貨幣制度を再建して、之を新幣制としたのである。當初に於ては、專ら紙幣に據るの外なき事も當然で、金留布と云ふよりも理論上金標準と同等な留布である。新發行法によると發行高の二五%は貴金屬、金銀、**プラチナ**、外國貨たるを要する。殘七五%は商品券、船荷證券、割引證券等で銀行が國庫へ貸す金に對しては其五割迄貴金屬準備を要する。兌換禁止である。此と相補つて大藏省は國庫券を發行するが、其額は金券發行高の半額迄としてある。乍然金券と國庫券との間には相互的關係が無い。拾留布紙幣が一**チエルボニツ**で、之れが金券であり其外の五留布、三留布、一留布紙幣が國庫券で、此外に銀貨、白銅貨、銅貨の補助貨がある。

物產や商品が準備金を爲すのが特長であるが、國營企業の大小共に其支持上

證券及手形の割引が必要で、相互間に手形を出して銀行に割引させる。缺點と云へば之が缺點である。其結果として商取引が澁滯すれば、其の爲めに發行を促す事となるから、必要に應ずる發行とは云ひ難い。國立銀行の資金が、國營企業に固定して居る事實も知つて置く可きである。國庫券は豫算の不足を補給するに使はれ得る、其處に不信が聯想され、此幣制が不確なる運命を有するもので無いかとの疑も生ずる。政府が紙幣を歳入不足に、企業の資金不足に、商取引の澁滯に利用するとせば、此貨幣の確實性は安定するもので無いとも言へよう。此國の商業企業が發達して此發行法に健全なる基礎を與ふる、をまつの外は有るまい。經濟活動に依て發行法の眞價が發揮されるのが當然であるからだ。此頃の發行高は兌換券十二億、大藏省券七億、合計十九億の紙幣流通に對して準備金貳億五千萬留布である。露國には今日爲替金融市場と言ふものが無い。外國銀行の營業を許さぬ。朝鮮銀行の浦汐支店の存在が驚異すべき唯一の例

外である。利用し得る外貨は全部政府又は政府の銀行の手に在る。政府は代理店に命じて、爲替率を定めしむる。如何なる爲替事務も政府の手を經るのである。內國商業と外國商業を獨占せる政府は個人が勝手に外國市場と露國市場との直接の經濟交涉するを許容し無い。

戰時共產時代の三年間に、貨幣經濟を無視して、準備金を全部拂ひ出した。後に再び準備金を作る絕對必要に逼られて、沒收した、地金、貴金屬、外國からの送金課稅、公設賭博場の上り金などを之に仕向け、外貨の貯蓄は輸出の增加輸入の減少に求たが、爲替の不利は外貨の流入を防ぎ卽輸出の不振となつて顯れて居る。斯る混沌時代に、兎も角硬貨準備制の上に、幣制を樹立した事は賞すべきであるが同時に銀貨を除く他の通貨が、確實性に缺くるあるは當然であらう。

貨幣制度は自由國家經濟に特別の制度。資本主義制度に特別の制度である事云ふ迄も無く、通貨の必要は資本主義思想であり、信用の基礎たる私有財產私